土木学会 北海道 大会報告

第52回通常総会

遊佐大会実行委員長

昭和41年度通常総会は昭和41年5月27日午後2時10分より，札幌市北三条西四丁目日本生命ビル8階講堂において開催された。この日，札幌は好天候に恵まれ参加会員も多く定刻前には法定数に達した。2時10分に岡部会長が議長席につき，羽田専務理事の司会により，遊佐大会実行委員長を紹介，遊佐委員長から昭和32年以来約10年ぶりに開かれる北海道大会に参加された多数の会員に対し，歓迎の言葉が述べられ，つづいて羽田専務理事より，現出席会員117名，委任状による参加会員1100名，計1277名をもって，会員総数22340名（4月末）の20分の1の出席があるので総会が成立する旨報告があり，ここに第52回通常総会を宣し，つづいて岡部議長が立ち，北海道支部の協力を謝し議事に入り，つぎの議案が承認された。

議案 1. 昭和40年度事業報告（自 昭和40年4月1日 至 昭和41年3月31日）

伊藤理事より説明があり了承された。

I. 理事・監事の選挙（昭和40年5月7日）

	退任	留任	新任
会長	福田 武雄君		岡部 三郎君
副会長	好井 宏海君	大石 勇君	水野 高明君
		山内 一郎君	
専務理事		羽田 巌君	
理事	内田 隆滋君	伊藤 直行君	青木 康夫君
	江口 馨君	板倉 忠三君	宇野 周三君
	岡崎 忠一君	春日屋伸昌君	内林 達一君
	粕屋 逸男君	斎藤 義治君	久保慶三郎君
	近藤市三郎君	篠原登美雄君	近藤市三郎君
	佐々木正久君	鋏 靖司君	佐藤 友光君
	嶋 祐之君	松尾新一郎君	多谷 虎男君
	西村 敏男君	村上 正君	富所 強哉君
	樋浦 大三君	八木 健二君	友田 清三君
	藤田 博愛君	安宅 勝君	成岡 昌夫君
	前沢 肥君	渡部 時也君	藤田 博愛君
	渡辺 新三君		町田 利武君
			耳野 慎君
			森垣 常夫君
監事	小林 嘉道君	武内 修君	井関 正雄君

カット写真は総会会場

II. 役員登記

理事の変更登記（昭和40年10月14日）

III. 通常総会および役員会

（1） 通常総会（40. 5.28，福岡市明治生命ホール）

出席者：1089名（内委任状875名を含む）

会員数 20158名

定足数 1007名

議 案：1） 昭和39年度事業報告 承認

2） 昭和39年度決算報告 承認

3） 定款一部改正の件 可決

副会長3名を4名と改む

4） 名誉会員の推挙 承認

Arthur Ippen君 Leopold Escande君

岡田信次君 菊池明君

久保田豊君 近藤泰夫君

永田年君 野田誠三君

報 告：評議員会の決議事項

1） 役員候補者選考内規：40.1.21 臨時評議員会 可決

2） 定款の一部改正：40.3.30 定例評議員会 可決

3） 規則の一部改正：40.3.30 定例評議員会 可決

4） 昭和40年度事業計画と予算：40.3.30 定例評議員会 可決

5） 第50回通常総会提出議案その他：39.5.12 定例評議員会 可決

表 彰：

1） 土木学会賞および土木学会奨励賞の授与

（1） 土木学会賞：1. 毛利 正光君

1. 川崎偉志夫君・乙藤憲一君・下川浩資君・池田哲夫君・吉田 巌君

（2） 土木学会奨励賞：1. 加藤 昭吉君

1. 島田 静男君

2） 吉田賞および吉田研究奨励金の授与

（1） 吉田賞：1. 藤田 嘉夫君

（2） 吉田研究奨励金：1. 角田与史雄君

1. 尾坂 芳夫君

1. 山口 良雄君・林 博君

1. 久門田 環君・本岡 和雄君・羽取 昌君

1. 川村 満紀君

1. 杉山 嘉徳君・満木 泰郎君

1. 町田 篤彦君

1. 吉田 弥智君

新任理事および監事の紹介：前掲省略

（2） 評議員会

1） 定　　例（40.5.12）

（1） 昭和40年度新役員選挙の結果報告　了承
　　前掲省略

（2） 第51回通常総会提出議案　可決
　　前掲省略

（3） 基金繰入について　可決

2） 臨時（40.8.2）（書面照会により）

（1） 土木学会規則の一部改正　可決
　　規則第34条　土木学会賞
　　第35条　表　　彰

3） 臨　　時（40.12.18）

（1） 土木学会規則の一部改正　可決
　　規則第11条　会費の改正

（2） 役員候補者選考内規の一部改正　可決

4） 定　　例（41.3.30）

（1） 昭和41年度事業計画　可決
　　別途掲載

（2） 昭和41年度予算　可決
　　別途掲載

（3） 理　事　会

定例：昭和40年4月から昭和41年3月まで12回
　（1） 協議事項　82項
　（2） 報告事項　会計報告，各種委員会その他

その他　担当理事会6回

（4） 支部幹事長会議（40.8.28）

1） 会員増加対策について

2） 通常総会および年次学術講演会の実施担当支部について。

IV. 各種委員会

（1） 表彰委員会

委員長　岡部　三郎君　　副委員長　水野　高明君
功績賞主査　伊藤　直行君　　技術賞主査　有江　義晴君
外に委員および幹事21名

1） 委員会2回，主査幹事会3回，2）功績賞および技術賞受賞者の選考，3） 土木学会賞受賞者の調整。

（2） 論文賞選考委員会

委員長　板倉　誠君　　副委員長　伊藤　剛君
第1部門主査　久保慶三郎君　　第2部門主査　嶋　祐之君
第3部門主査　松尾新一郎君　　第4部門主査　八十島義之助君
外に委員および幹事23名

1） 委員会3回，主査幹事会3回，打合会2回，2） 論文賞および論文奨励賞の選考。

（3） 吉田賞選考委員会

委員長　福田　武雄君　　副委員長　国分　正胤君
外に委員および幹事23名

1） 委員会3回，小委員会1回，幹事会3回，2） 吉田賞受賞者および吉田研究奨励金被授与者の選考。

（4） 表彰制度審議委員会

委員長　永田　　年君
外に委員14名

1） 委員会3回，小委員会3回，打合会1回，2） 土木学会表彰制度の改正，3） 土木学会賞（功績賞・技術賞・論文賞・吉田賞）の設置。

（5） 大学土木教育委員会

委員長　米屋　秀三君
外に委員および幹事39名

1） 委員会1回，幹事会3回，打合会2回，2） 大学卒業生の活躍状況の調査，3） 大学土木教育の実情の調査研究，4）「土木技術者の活躍と大学土木教育」の刊行，5） 第2期委員会の設置準備。

（6） 高校土木教育研究委員会

委員長　福田　武雄君
外に委員および幹事30名

1） 委員会1回，幹事会3回，分科会11回，2） 土質，材料水理各実験指導書の改訂，3） 高校土木教育のあり方につき学生指導要領の検討。

（7） 学術講演連絡委員会

委員長　林　泰造君
外に委員および幹事17名

1） 委員会5回，2） 第20回年次学術講演会（40.5.29～30 福岡市）開催に協力，3） 夏期講習会(40.8.27～28 東京都）開催に協力，4） 第15回応用力学連合講演会（40.9.17～18 東京都）を日本学術会議および，8学協会と共催，第9回材料試験連合講演会（40.9.9～10 東京都）を日本学術会議および関係学協会と共催に協力，5） 学会誌「講座」を用いた講習会の開催につき検討，6） 土木系学生会を指導，後援，7） 各種講演会に協力。

（8） 会誌編集委員会

委員長　樋口　芳朗君
外に委員および幹事39名

1） 委員会7回，小委員会10回，打合会4回，座談会4回，2） 土木学会誌50巻5号～51巻4号12冊

登載内容：	論　　説	14	座談会	5
	展　　望	14	解　　説	9
	報　　告	28	講　　演	3
	資　　料	6	寄　　書	10
	話のひろば	5	海外事情	2
	講　　座	17	ロータリー	12
	マンスリートピックス	12	特集記事	5
	ニュース	82	豆知識	4
	今日の焦点	2	学生欄	8
	論文紹介　文献抄録　文献目録等			

3） 発行総ページ数：2124ページ(目次，写真，広告を含む)，4） 発行総部数：251150部，5） 年間発行総ページ数は昨年よりやや減退したが，その内容においては昨年に引続いて，より親しみやすい，より漸新な編集方針を堅持した。

特集としては50巻6号の「最近の技術者問題」，50巻7号，8号「土木学会九州大会特集」，50巻12号「1965年の回顧と展望」，51巻1号「開発は社会と自然を変える」，51巻3号「土木系研究機関の現況をさぐる」を登載，土木界の当面する諸問題を掘り下げた。

また，今日の焦点にあたっては50巻5号に「技術輸出―それは日本土木技術界の悲願である―」，50巻10号「公共投資と予算制度」を登載し注目を集めた。

また，座談会記事としては，特集記事関係を除いて，50巻1号「フランス技術者のみた日本」，50巻12号「国土改造計画を語る―東京湾横断堤計画の話題」を登載した。

また，実用講座「鉄構造物の防錆と防蝕」，「シールド工法」，「土木と気象」，「測定・基礎編」は好評であった。

その他，懸賞論文を募集，そのうち1編を51巻1号に登載した。

（8―1） 会誌編集委員会・書評小委員会

委員長　樋口　芳朗君　　小委員長　高橋　裕君
外に委員4名
1）委員会6回，2）出版図書に関する諸成果として重要出版物の紹介を会誌に発表。

（9）論文集編集委員会

委員長　村上　永一君　　副委員長　粟津　清蔵君
第1部会長　村上　博智君　　第2部会長　粟津　清蔵君
第3部会長　都　淳一君　　第4部会長　池田　康平君
外に委員および幹事47名
1）委員会6回，部会長会8回，幹事会1回，2）土木学会論文集117～128号12冊，4）発行総ページ数651ページ（内英文要旨80ページ），4）発行総部数56900部，5）前年に比較して総ページ数・購読者とも10%の増加をみ，討議原稿をも登載し，内容の改善に努力した。

（10）文献調査委員会

委員長　高橋　裕君
外に委員および幹事26名
1）委員会12回，2）会誌50巻5号～51巻4号に文献抄録69件88ページ，文献目録3848件65ページ，解説記事3編27ページ登載，3）内外文献の整理と海外文献より見た展望解説記事「プレストレスト（PS）鋼構造」，「波圧算定式について」「土木工程管理の手法」の3編を会誌に登載，4）土木図書館備付図書選定に協力。

（11）土木年鑑編集委員会

委員長　八十島義之助君　　副委員長　片山　祐一君
外に委員および幹事34名
1）委員会1回，幹事会2回，2）土木年鑑(仮称)の作成準備。

（12）土木図書館運営委員会

委員長　米元　卓介君
外に委員および幹事22名
1）委員会2回，幹事会2回，打合会1回，2）図書館備付図書の決定，3）資料類の収集，4）図書館運営業務の検討，5）フィルムライブラリーの設置，6）会員に対するPR方法。

（13）海外連絡委員会

委員長　伊藤　剛君
外に委員および幹事16名
1）委員会4回，幹事会1回，2）英文年報(Civil Engineering in Japan 1965)を刊行，同66年版を準備中，3）わが国の土木技術の海外進出に協力，4）土木技術の海外進出につき帰国者との懇談会を実施。

（14）土木製図基準改訂委員会

委員長　菊池　洋一君
外に委員および幹事16名
1）委員会3回，打合会1回，2）土木製図規格委員会の改組，3）土木製図基準(I)の改訂。

（15）水理委員会

委員長　石原藤次郎君　　副委員長　林　泰造君
外に委員および幹事46名
1）委員会3回，幹事会1回，常任幹事会2回，小委員会1回，2）第10回水理講演会（41.2.18　東京都）を開催し，講演集を刊行，3）水理学研究の現況を会誌（51巻3号）に発表，4）水工学夏期研修会（40.8.2～14　札幌市）を開催し，講演集を刊行，5）河川災害と水収支に関するセミナーを後援，6）水理公式集小委員会において既刊水理公式集のアフターケアーと解説書刊行について検討，7）水文学小委員会において国際水文10年計画に協力，8）第10回海岸工学国際会議を日本で開催につき協力。

（16）出版企画委員会

委員長　森　　茂君　　副委員長　春日屋伸昌君
外に委員および幹事23名
1）委員会5回，幹事会5回，打合会3回，2）出版物および監修出版物の企画・調整および出版作業のための準備会，委員会の設置を立案，新出版物企画に対するアンケート調査等を実施，3）主なる新刊：工事報告 大鳥セミアーチダム（電源開発KK依託），コンクリート・ライブラリー第13号，第14号(コンクリート委員会)，構造工学における最近の諸問題（学術講演連絡委員会），コンクリート標準示方書土木学会規準（コンクリート委員会），土木技術者の活躍と大学土木教育（大学土木教育委員会），耐震設計講習会テキスト（耐震工学委員会・会誌編集委員会），日本土木史（日本土木史編集委員会），工事報告 川俣アーチダム(川俣アーチダム編集小委員会)，工事報告 一ツ瀬・杉安アーチダム（九州電力KK依託），第12回海岸工学講演会講演集（海岸工学委員会），第10回水理講演会講演集（水理委員会），土木学会名簿（事務局），Civil Engineering in Japan 1965（海外連絡委員会），Coastal Engineering in Japan, Vol. 8（海岸工学委員会）。

（17）わかり易い土木講座編集委員会

委員長　福田　武雄君　　副委員長　後藤　正司君
外に委員および幹事57名
1）委員会1回，幹事会2回，2）中堅技術者のための土木講座（全21巻）を編集中。

（18）土木工学叢書委員会

委員長　最上　武雄君
外に委員および幹事8名
1）委員会2回，2）従来の叢書委員会を改組，第2次出版計画（全26巻）として編集中。

（19）日本土木史編集委員会

委員長　青木　楠男君　　副委員長　金子　柾君
外に委員および幹事23名
1）委員会1回，2）日本土木史（大正元年～昭和15年）を刊行。

（20）海岸工学委員会

委員長　本間　仁君
外に委員および幹事34名
1）委員会1回，小委員会2回，2）第12回海岸工学講演会(40.11.18～19　名古屋市)を開催，講演集を刊行，同時に見学会を実施，3）Coastal Engineering in Japan Vol. 8を刊行，同Vol. 9を編集，4）1966年9月，第10回海岸工学国際会議を日本で開催することに協力。

（21）耐震工学委員会

委員長　那須　信治君　　副委員長　岡本　舜三君
外に委員27名
1）委員会11回，2）第8回地震工学研究発表会（40.10.20～21　東京都）を開催し，講演集を刊行，3）日本地震工学シンポジウム(1966)を関係4学会と共催につき準備中，4）地震工学トレーニングセンターに協力，5）国際地震工学会議に協力，6）国内，外の耐震問題につき調査研究，連絡，7）日本学術会議地震工学研究連絡委員会に協力，8）土木震動学便覧編集小委員会に協力，9）新潟震災調査委員会に協力，10）軟弱地盤耐震設計研究委員会（受託）に協力，11）本州四国耐震設計小委員会(受託)に協力，12）耐震設計講習会開催に協力。

（21—1）土木振動学便覧編集小委員会

委員長　大地　羊三君

外に委員28名

1) 委員会4回，編集打合会3回，打合会2回，2)「土木技術者のための振動便覧」を41年7月に刊行するよう編集中，3) 昭和41年度夏期講習会に協力。

(22) 新潟震災調査委員会

委員長 岡本 舜三 君

外に委員および幹事53名，専門委員103名

1) 幹事会3回，専門委員会24回，2) 新潟地震震害調査報告書作成のため15部門に別れ，調査，編集を実施中。

(23) 橋梁構造委員会

委員長 福田 武雄 君

外に委員および幹事19名

材料分科会 主査 友永 和夫 君 外に委員14名

1) 分科会7回，2) 第12回橋梁・構造工学研究発表会(40.11.26 東京都)を日本学術会議，日本建築学会と共催，3) 日本学術会議橋梁・構造工学研究連絡委員会に協力，4) 国際橋梁・構造工学会議に協力，5) 工業技術院からの諮問により，日本工業規格(高張力鋼)の改正に協力。

(24) トンネル工学委員会

委員長 藤井松太郎 君

外に委員および幹事54名

1) 委員会1回，主査幹事会2回，2) トンネル工学に関する調査，研究を実施，3) 第3回トンネル工学シンポジウム開催の準備，4) トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究委員会(受託)に協力，5) トンネル工事の実態調査小委員会に協力，6) トンネル土圧調査小委員会に協力，7) シールド工法小委員会に協力。

(24—1) トンネル土圧調査小委員会

委員長 村山 朔郎 君

外に委員および幹事22名

1) 委員会3回，打合会2回，2) トンネル土圧に関する調査研究を実施，3) トンネル土圧の設計，施工の指針作成準備中。

(24—2) シールド工法小委員会

委員長 西嶋 国造 君 副委員長 遠藤 浩三 君

外に委員および幹事33名

1) 委員会1回，幹事会5回，打合会1回，2) シールド工法に関する調査研究を実施，3) シールド工事の実績調査を実施，4) 同資料集作成準備中。

(24—3) 工事の実態調査小委員会

委員長 住友 彰 君

外に委員9名

1) 委員会3回，2) わが国トンネル工事の設計，施工に関する実態調査を実施，3) 同資料集作成準備中。

(25) 岩盤力学委員会

委員長 岡本 舜三 君 副委員長 畑野 正 君

外に委員および幹事85名(内常任委員55名)

1) 委員会1回，打合会1回，常任委員会5回，主査幹事会3回，編集委員会7回，分科会43回，2) 第1(岩盤の工学的表示方法)，第2(クリープ試験)，第3(グラウト工)，第4(耐荷力算定方法)，第5(トンネル)の5分科会に別れ，それぞれ専門的に調査研究を実施，3) 第3回岩盤力学に関するシンポジウム(40.11.15～16 東京都)を開催，講演集を刊行，4)「土木技術者のための岩盤力学」を編集中，5) 川俣アーチダム編集小委員会に協力，6) 国際岩盤力学会議に協力。

(25—1) 川俣アーチダム編集小委員会

委員長 岡本舜三君 副委員長 駒井 勲君 土居正典君

外に委員5名

1) 打合会1回，2) 工事報告 川俣アーチダムを40年8月刊行，解散した。

(26) 衛生工学委員会

委員長 板倉 誠 君

外に委員および幹事20名

1) 委員会4回，小委員会1回，懇親会1回，2) 衛生工学に関する調査研究を実施，3) 第2回衛生工学講演討論会(40.11.7 京都市)を開催，講演集を刊行，4) 第11回太平洋学術会議開催に協力，5) 衛生工学関係者懇親会(40.5.29 福岡市)を開催。

(27) 原子力土木技術委員会

委員長 左合 正雄 君

外に委員および幹事26名

1) 委員会10回，2) 原子力に関する調査，研究を実施，3) 第2回理工学における同位元素研究発表会(40.4.20～22 東京都)を日本放射性同位元素協会および関係学協会と共催，4) 第4回原子力総合シンポジウム(41.2.14～15 東京都)を日本原子力学会および関係学協会と共催，5) 原子力関係コンクリート小委員会(受託)に協力。

(28) コンクリート委員会

委員長 国分 正胤 君

外に委員および幹事55名

1) 打合会1回 懇談会1回，2) コンクリート標準示方書改訂のためつぎの小委員会において鋭意審議続行中

○ 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会
○ 無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会
○ ダム コンクリート標準示方書改訂小委員会

3) プレストレスト コンクリート小委員会に協力，4) 第2回異形鉄筋に関するシンポジウム(40.4.23 東京都)を開催講演集を刊行，5) コンクリート関係有志懇談会(40.7.3 東京都)を開催，6) 異形鉄筋実験研究小委員会(受託)に協力，7) フライアッシュ小委員会(受託)に協力，8) 構造用軽量骨材に関する研究委員会(受託)に協力，9) 原子力関係コンクリート小委員会に協力，10) 太径鉄筋に関する研究小委員会(受託)に協力，11) PC工法小委員会(受託)に協力，12) 異形鉄筋コンクリート構造物の設計例集改訂小委員会(受託)に協力，13) 土木学会基準を40年7月に改訂出版，14) コンクリート・ライブラリー13，14号を刊行，15) 吉田賞選考委員会に協力，16) 日本コンクリート会議に協力，17) 日本学術会議材料研究連絡委員会に協力，18) 終極強度に関する調査研究を日本建築学会と共同研究に協力。

(28—1) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分 正胤 君 主査 河野 通之 君

外に委員および幹事33名

1) 委員会2回，幹事会10回，2) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂審議実施中。

(28—2) 無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長 国分 正胤 君 主査 樋口 芳朗 君

外に委員および幹事49名

1) 委員会2回，打合会11回，分科会18回，2) 無筋コンクリート標準示方書改訂審議実施中，3) 軽量コンクリート分科会(主査 村田二郎君)において人工軽量骨材コンクリート設計施工指針(案)を刊行準備中，4) プレパックド コンクリート分科会(主査 樋口芳朗君)においてプレパックド コンクリート施工指針(案)を刊行準備中。

(28—3) ダム コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長　国分　正胤君　　主　査　関　慎吾君
外に委員および幹事21名
1）委員会2回，2）ダム コンクリート標準示方書改訂審議実施中。

（28—4）プレストレスト コンクリート小委員会
委員長　国分　正胤君
外に委員および幹事62名
1）分科会1回，2）プレストレスト コンクリート設計施工指針の次期改訂にそなえ調査研究続行中。

（28—5）異形鉄筋実験研究小委員会（受託）
委員長　国分　正胤君
外に委員18名
1）委員会2回，2）わが国国産の高強度異形棒鋼につき共通試験を実施し，第2回異形鉄筋に関するシンポジウムにおいて，各委員よりその結果を発表，その内容をコンクリート・ライブラリー14号(40.12)に刊行，委託者に報告を行ない解散。

（28—6）フライアッシュ小委員会（受託）
委員長　国分　正胤君
外に委員および幹事24名
1）フライアッシュを混和したコンクリート中の鉄筋のさびに関する長期研究を実施中。

（28—7）構造用軽量骨材に関する研究委員会（受託）
委員長　国分　正胤君
外に委員13名
1）構造用軽量骨材の品質および使用方法の標準化の基礎資料を得るため国産軽量骨材の共通試験を実施中。

（28—8）原子力関係コンクリート小委員会（受託）
委員長　国分　正胤君
外に委員29名
1）委員会1回，分科会1回，2）放射性廃棄物の海洋投棄用容器の小型模型の設計・製作を行ない，実物大容器作成の基礎資料を得るため試験研究を実施。

（28—9）太径鉄筋に関する研究小委員会（受託）
委員長　国分　正胤君
外に委員10名
1）国産太径鉄筋の使用方法に関し共通試験を実施中。

（28—10）異形鉄筋コンクリート構造物の設計例集改訂小委員会（受託）
委員長　国分　正胤君
外に委員11名
1）既刊異形鉄筋コンクリート構造物の設計例集を改訂のため審議中。

（28—11）PC工法小委員会（受託）
委員長　国分　正胤君
外に委員および幹事37名
1）委員会8回，打合会3回，2）ディビダーク工法（主査樋口芳朗君）の設計，施工の指針作成のための審議を行ない，成案を得，コンクリート・ライブラリーとして出版準備中，3）MDC工法（主査 河野通之君）の設計，施工の指針作成のための審議続行中。

（29）軟弱地盤耐震設計研究委員会（受託）
委員長　岡本　舜三君
外に委員および幹事41名
1）委員会3回，幹事会6回，幹事打合会2回，2）軟弱地盤における橋梁下部構造の耐震設計に関する調査研究を実施。

（30）トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究委員会（受託）
委員長　坂本　貞雄君
外に委員および幹事15名
1）委員会3回，2）トンネル用鋼支保工の線形および材質における強度に関し試験研究を実施。

（31）本州四国連絡橋技術調査委員会（受託）
委員長　青木　楠男君　　副委員長　沼田　政矩君
顧　問　内海　清温君　　鈴木　雅次君
外に委員，幹事および幹事補佐45名
1）委員会2回，幹事会8回，打合会20回，2）本州四国連絡橋の技術的調査検討を行なうため，基礎に関する専門部会，上部構造に関する専門部会，耐風設計小委員会，耐震設計小委員会において調査研究を実施，3）第1次報告書（付属資料：耐風設計指針(1964)解説，鋼材調査)を中間報告書として報告，4）海外の長大橋視察のため，最上武雄委員外6名を40. 9.14～10.13の間派遣に協力。

（31—1）基礎に関する専門部会（受託）
部会長　沼田　政矩君　　副部会長　広田　孝一君
外に委員および幹事65名
1）部会2回，幹事会7回，打合会3回，現地視察1回，海外視察1回，2）地形・地質の調査，橋梁基礎の構造・工法について調査研究を実施，3）第1次報告書作成に協力，4）現地視察を実施(40.5.13～15)，5）海外視察を実施(40.9.14～10.13)。

（31—2）上部構造に関する専門部会（受託）
部会長　青木　楠男君
外に委員および幹事51名　特別委員8名
1）部会2回，幹事会6回，打合会5回，2）長大橋梁の構造・工法，耐風性，鋼材等につき調査研究を実施，3）第1次報告書作成に協力，4）同付属資料 鋼材調査を作成。

（31—3）耐風設計小委員会（受託）
委員長　平井　敦君
外に委員および幹事42名
1）委員会4回，幹事会8回，2）耐風設計に関する諸問題の調査研究を実施，3）第1次報告書作成に協力，4）同付属資料　耐風設計指針(1964)解説を作成。

（31—4）耐震設計小委員会（受託）
委員長　岡本　舜三君
外に委員および幹事49名
1）委員会1回，幹事会11回，打合会2回，2）耐震性に関する諸問題の調査研究を実施，3）第1次報告書作成に協力。

（32）八郎潟干拓船越水道計画施行研究委員会（受託）
委員長　本間　仁君
外に委員，幹事および幹事補佐17名
1）委員会2回，2）八郎潟干拓の船越水道計画施行に関する調査研究を実施。

（33）河北潟干拓河口工事研究委員会（受託）
委員長　福田　仁志君
外に委員，幹事および幹事補佐21名
1）委員会3回，2）河北潟干拓建設事業河口工事施行に関する調査研究を実施。

（34）中海干拓事業水理研究専門委員会（受託）
委員長　速水頌一郎君
外に委員，幹事および幹事補佐22名
1）委員会2回，2）中海干拓事業の中海および周辺水域におよぼす水理学的影響に関する調査研究を実施。

（35）相模川高度利用計画に伴う河口調査委員会（受託）
委員長　本間　仁君

外に委員および幹事10名

1) 委員会2回, 2) 相模川高度利用計画に伴う河口調査につき調査研究を実施。

V. 本部行事

(1) 講演会・研究発表会・シンポジウム

1) 40. 4.23：第2回異形鉄筋に関するシンポジウム,日本化学会講堂，講演数：19題，参加者：250名

2) 40. 5.29～30：第20回年次学術講演会（西部支部実施）
1. 総合講演　福岡市民会館
講演数：5題　参加者：1800名
2. 一般講演　九州大学工学部教室
Ⅰ部門：106題　参加者：延 600名
Ⅱ部門：136題　参加者：延 800名
Ⅲ部門：94題　参加者：延 700名
Ⅳ部門：116題　参加者：延 600名

3) 40.10.20～21：第8回地震工学研究発表会，土木図書館講堂，講演数　一般：21題，特別：2題，参加者：210名

4) 40.11. 7：第2回衛生工学講演討論会，京都大学電気総合館ホール，講演数：11題，参加者：200名

5) 40.11.15～16：第3回岩盤力学に関するシンポジウム，土木図書館講堂，講演数　一般：11題，特別3題，参加者：200名

6) 40.11.18～19：第12回海岸工学講演会，愛知県中小企業センター，講演数：39題，映画：2編，参加者：230名

7) 41. 2.18～19：第10回水理講演会，土木図書館講堂，講演数：22題，参加者：170名

(2) 講習会・研修会

1) 40. 8. 2～ 7：水工学に関する夏期研修会（北海道支部と共催）
ダム・河川コース　参加者：99名
9～14：海岸・港湾コース　参加者：79名

2) 40. 8.26～27：昭和40年度夏期講習会（構造工学における最近の諸問題），豊島公会堂，講演数：12題，参加者：870名

3) 40.10.18～19：耐震設計講習会，発明会館ホール，講演数：10題，参加者：350名

(3) 見学会

1) 40.5.31～6.2：通常総会に伴なう見学会
A班（1日）関門・北九州コース　参加者：80名
B班（2日）西九州コース　参加者：45名
C班（2日）中九州コース　参加者：42名
D班（3日）南九州コース　参加者：40名

2) 40.11.20：第12回海岸工学講演会に伴なう見学会，見学先：日光川水閘門，鍋田干拓，名古屋高潮防波堤，四日市港，日本板ガラス四日市工場，参加者：50名

(4) 懇親会・懇談会・座談会

1) 40. 5.28：通常総会における土木賞，吉田賞受賞者懇談会，明治生命ホール，参加者：15名

2) 40. 5.29：通常総会懇親会，天神ビル大ホール，参加者：400名

3) 40. 5.29：衛生工学関係者懇親会，博多パラダイス，参加者：59名

4) 40. 6.18：新旧理事，監事引継ぎ懇親会，東京ステーションホテル，参加者：33名

5) 40. 7. 3：コンクリート有志懇親会，土木図書館5号室，参加者：33名

6) 40. 9.13：フランス技術者の見た日本（座談会），レインボーホール，参加者：7名

7) 40. 9.21：国土改造計画を語る（座談会），土木図書館5号室，参加者：11名

8) 40.10.20：第8回地震工学研究発表会に伴なう懇親会，土木図書館5号室，参加者：17名

9) 40.11. 7：第2回衛生工学講演討論会に伴なう懇親会，京都大学ホール，参加者：45名

10) 40.11. 8：開発/社会/自然(座談会)，土木図書館5号室，参加者：8名

11) 40.11.25：シールド工法の話題（座談会），レインボーホール，参加者：10名

12) 40.12. 6：国産コンクリート技術開発に関する懇談会，土木図書館3号室，参加者8名

13) 40.12. 7：PC工法に関する懇談会，丸の内ホテル，参加者：10名

14) 40.12.10：土木技術における研究のあり方（座談会），土木図書館5号室，参加者：7名

(5) その他

1) 40. 9.29～30：秋のエキスカーション，見学先：中央道工事・小仏トンネル工事・笹子トンネル工事・御坂トンネル・富士スバルライン・東名道路工事，参加者：64名

2) 40.10. 6：国際水理学会出席者帰朝報告会，土木図書館講堂，参加者：50名

(6) 関係学協会講演会・講習会等

1) 40. 4.20：T.Y. Lin 氏講演会（後援），東京会館

2) 40. 4.20～22：第2回理工学における同位元素研究発表会（共催），東京大学

3) 40. 6. 3～ 4：第3回接着研究発表会（共同主催），日本消防会館内日消ホール

4) 40. 9. 7～ 8：第15回応用力学連合講演会(共催)，東京大学工学部

5) 40. 9. 9～10：第9回材料試験連合講演会（共催），明治大学大学院

6) 40.10. 4～ 8：第4回宅地造成講習会（共催），厚生年金会館ホール

7) 40.10.18～19：災害科学に関する第2回合同総合講演会（後援），東京大学工学部2号館

8) 40.10.28～30：第14回レオロジー討論会(共催)，宮城県民会館

9) 40.11.19：風に関するシンポジウム(共催)，東京会館

10) 40.11.26：第12回橋梁・構造工学研究発表会(共催)，日本建築学会

11) 40.11.26：構造の軽量化に関するシンポジウム（共催），土木図書館講堂

12) 41. 1. 24～25：第6回防災化学研究発表会(共催)，日本化学会講堂

13) 41. 2.14～15：第4回原子力総合シンポジウム（共催），神田学士会館

14) 41. 3. 9～11：応用測定に関する講習会（協賛），京都工芸繊維大学工芸学部

VI. 支部行事

(1) 北海道支部　支部長　中村　稔君

1) 総　会　41. 2.22　札幌市市民会館
2) 役員会　4回
3) 幹事会　5回
4) 刊行物編集委員会　4回
5) 事務局移転委員会　3回
6) 講演幹事会　2回
7) 見学幹事会　2回
8) 支部奨励賞委員会　1回
9) 会計監査　1回
10) 講演会
① 40. 6. 1：道銀ビル，講演数：1題，参加者：120名
② 40. 7. 6：婦人会館，講演数：1題，参加者：70名
③ 40.11.26：婦人会館，講演数：2題，参加者：50名
11) 講習会
① 40. 8. 2～14：水工学に関する夏期研修会（水理委員会と共催）北海道大学教養部
ダム・河川コース，参加者：99名
海岸・港湾コース，参加者：79名
② 41. 2.22：年次講習会，札幌市市民会館
講演数：3題，参加者：60名
12) 研究発表会
① 41. 2.21：札幌市市民会館，発表数：22題，参加者：100名
13) 見学会
① 40. 7.31：第1回見学会（札幌地区），見学先：静内ダム，参加者：35名
② 40. 8.27：第2回見学会（函館地区），見学先：青函トンネル，参加者：63名
③ 40.10. 1：第3回見学会（旭川地区），見学先：層雲峡道路改良工事，参加者：40名
14) 映画会
① 40. 7. 2：学生のための映画会，北海道大学クラーク会館，映画：4編，参加者：600名
15) 刊行物
① 40. 2.20：技術資料第22号，発行部数：1600部，論文(報告含)数：22編，ページ数：201ページ

(2) 東北支部　支部長，河上　房義君

1) 支部総会　40. 5.21　仙台セントラル・ホテル
2) 支部役員会　2回
3) 商議員会　1回
4) 幹事会　3回
5) 会計監査　1回
6) 講習会
① 41.10.25～26：土質調査法講習会（共同主催），宮城県民会館，講演数：9題
7) 研究発表会
① 41. 3.15：技術研究発表会，宮城県民会館，発表数：14題，参加者：200名
8) 講座
① 41. 1.21：第1回技術講座，岩手県自治会館，講演数：2題，参加者：300名
② 41. 3.24：第2回技術講座，建設会館，講演数：2題，参加者：200名
9) 見学会
① 40.10.10：第1回見学会（岩手大学学生），見学先：開発岩手セメント工場，参加者：100名
② 40.10.24：第2回見学会（日本大学学生），見学先：小谷橋工事現場，参加者：100名
③ 40.10.27：第3回見学会（東北大学学生），見学先：国道4号線・13号線・エコーライン・栗子トンネル工事現場，参加者：100名
④ 40.10.28～29：第4回見学会（一般），見学先：岩手県東北開発セメント松川工場・運輸省第2港湾工事現場，参加者：50名
10) 映画会
① 40.11.27：第1回映画会，宮城県建設会館，映画：4編，参加者：200名

(3) 関東支部　支部長　当山　道三君

1) 支部総会　40. 4.28　土木図書館講堂
2) 役員会　1回
3) 幹事会　7回
4) 顧問会　1回
5) 昭和40年度関東地区評議員選挙　40.4.1～20
6) 講演会
① 40. 6.18：海外進出の問題，土木図書館講堂，講演数：4題，映画：1編，参加者：80名
7) 講習会
① 40. 7. 7：シールド工法の現状と問題点，発明会館，題目：10題，参加者：320名
② 40.12. 8：コンクリート混和剤，土木図書館講堂，題目：7題，参加者：100名
8) セミナー
① 40.11.16～19：電子計算に関するセミナー，土木図書館外，参加者：13名
9) 見学会
① 40. 8. 3～ 4：第1回見学会，見学先：黒四ダム発電所，参加者：30名
② 40.10.12～13：第2回見学会，見学先：川俣ダム・五十里ダム・日光道路・金精道路，参加者：37名
10) 映画会
① 40. 4.17：第1回映画会，土木図書館講堂，映画：4編，参加者：60名
② 40. 5.15：第2回映画会，土木図書館講堂，映画：4編，参加者：55名
③ 40. 6.19：第3回映画会，土木図書館講堂，映画：4編，参加者：40名
④ 40. 7.17：第4回映画会，前橋市立工業短期大学，映画：5編，参加者：120名
⑤ 40. 9.25：第5回映画会，栃木会館，映画：4編，参加者：400名
⑥ 40.10.15：第6回映画会，山梨県立峡南高校，映画：5編，参加者：650名
40.10.16：第6回映画会，山梨県甲府工業高校，映画：5編，参加者：650名
⑦ 40.12.10：第7回映画会，土木図書館講堂，映画：4編，参加者：15名
11) 刊行物
① 40. 7. 7：「シールド工法の現状と問題点」，発行部数：2000部
② 40.11.16：「アルゴルによるプログラミング」，発行部数：170部

（4） 中部支部　支部長　北村　正之君

1） 支部総会　40. 4.28　金沢市農業会館

2） 役員会　4回

3） 幹事会　11回

4） 講演会

① 40. 4.28：支部総会に伴なう記念講演会，金沢市農業会館，講演数：2題，参加者：120名

② 40. 7.16：第1回講演会，岐阜市歯科医師会館，講演数：2題，映画：1編，参加者：52名

③ 40.11.18～19：海岸工学講演会（本部に協力），愛知県中小企業センター，講演数：39題，参加者：170名

④ 40.11.26：第2回講演会，愛知県産業貿易館，講演数：2題，映画：2編，参加者：40名

5） 講習会

① 41. 2.25：「地盤注入工法の手引」，愛知県文化会館，題目：1題，参加者：180名

6） 研究発表会

① 40.10.22：研究発表会，名古屋大学工学部，特別講演：1題，発表数：38題，参加者：160名

7） 技術講座

① 40. 9.22：技術講座，名古屋工業大学，題目：4題，参加者：82名

8） 見学会（一般）

① 40. 4.28：支部総会に伴なう見学会，見学先：河北潟干拓工事，参加者：120名

② 40. 6. 4：第1回見学会，見学先：名古屋市地下鉄工事テレビ塔下付近，参加者：208名

③ 40. 8.27：第2回見学会，見学先：名四国道木曽長良橋梁工事，参加者：84名

④ 40.12. 3：第3回見学会，見学先：東名高速道路小牧一岡崎間工事，参加者：82名

⑤ 41. 3.25：第4回見学会，見学先：関西電力木曽発電所工事，参加者：35名

見学会（学生）

① 40. 5.12：信州大学生のための見学会，見学先：東京都内・首都高速道路・愛知県下および名神道路，参加者：73名

② 40.11.22：岐阜大学生のための見学会，見学先：滝上工業KK半田工場，参加者：48名

③ 41. 2.12：名古屋工業大学生のための見学会，見学先：名古屋市浄水場および下水処理場，参加者：60名

④ 41. 3.14～15：名古屋大学生のための見学会，見学先：愛知県下東海製鉄・東名高速道路・その他，参加者：35名

9） 懇親会

① 40. 4.28：支部総会に伴なう懇親会，片山津温泉（みたにや），参加者：70名

（5） 関西支部　支部長　玉井　正彰君

1） 総会　40. 5.11　好文倶楽部

2） 商議員会　4回

3） 幹事会　12回

4） 土木学会賞候補者支部推薦詮衡委員会　2回

5） 役員候補者選考委員会委員打合会　2回

6） 講演会

① 40. 4.17：ペンジエーン教授講演会，京都大学，講演数：1題，参加者：60名

② 40. 4.19：レオンハルト教授講演会，京都教育文化センター，講演数：1題，参加者：203名

③ 40. 5.11：支部総会に伴なう講演会，好文倶楽部，講演数：2題，映画：1編，参加者：115名

④ 40. 9.14：和歌山の開発についての講演会，和歌山県立美術館，講演数：3題，映画：2編，参加者：67名

⑤ 40.10.13：ニュータウン建設と市街地再開発に関する講演会，大阪科学技術センター，講演数：5題，参加者：146名

⑥ 40.11. 4～ 6：第8回溶射技術講演会および研究発表会，日刊工業新聞大阪支社，講演数：特別1題，一般6題，研究発表数：7題，参加者：68名

⑦ 40.11.14：関西支部年次学術講演会（昭和40年度），京都大学，講演数：特別1題，一般102題，参加者：307名

⑧ 40.11.19：兵庫県を中心とする総合開発計画についての講演会，兵庫県民生部地下大ホール，講演数：4題，映画：3編，参加者：200名

⑨ 41. 1.18：海外事情講演会（万国博に関する講演会），好文倶楽部，講演数：3題，参加者：111名

⑩ 41. 1.20：シールド工法講演会，大阪府職員会館，講演数：7題，参加者：506名

7） 講習会

① 40.10.22：鉄筋コンクリート構造におけるガス圧接講習会，大阪府職員会館，題目：4題，特別講演：2題，参加者：254名

② 40.10.26～27：最近の鋼構造に関する講習会，大阪厚生会館，題目：10題，参加者：310名

③ 40.11.25～26：人工軽量骨材コンクリート講習会，大阪工業大学，題目：6題，参加者：講議220名，実習130名

④ 40.12.15～16：耐震設計講習会，大阪科学技術センター，題目：10題，参加者：259名

⑤ 41. 3.22～23：最近の地下工法に関する講習会，大阪科学技術センター，題目：8題，参加者：258名

8） シンポジウム

① 41. 2.10：注入工法の手引の解説と討論会，大阪科学技術センター，題目：5題，参加者：261名

② 41. 2.11：セメント・コンクリート規格および建設材料の最近の趨勢に関するシンポジウム，大阪科学技術センター，題目：7題，参加者：173名

9） 研究会

① 40. 8.17：土木公害に関する研究会，大阪科学技術センター，題目：1部門4題，参加者：166名，2部門4題，参加者：140名

② 40.11.26：高い盛土の沈下に関する研究会，三和銀行玉造支店，題目：3題，参加者：87名

③ 40.12. 7：プレートガーダーの耐荷力に関する研究会，大阪科学技術センター，題目：9題，参加者：90名

10） 見学会

① 40.10.23：第1回学生見学会，見学先：天ケ瀬ダム・天ケ瀬発電所・南郷洗堰・琵琶湖大橋・名神高速道路，参加者：180名

② 40.11.16～17：名阪国道見学会（一般），見学先：名阪国

道工事・桔梗ケ丘団地・その他，参加者：58 名

③ 40.11.21：第2回学生見学会　見学先：神戸高速鉄道神戸駅工事・阪神高速道路工事（D.W. 工法），参加者：53 名

④ 40.12. 1：第3回学生見学会，見学先：阪神高速道路工事（D.W. 工法）・日本道路公団神明道路・神戸市埋立工事，参加者：177 名

11）座　談　会

① 40. 4. 2：イッペン教授を囲む座談会，京都大学，講演数：1題，参加者：60 名

② 40. 8.16：土木構造物の在り方について，座談会：（第1回）京都新聞社，参加者：6名

③ 40. 9.11：座談会（第2回），京大楽友会館，参加者：8名

④ 40.12.11：座談会（第3回），神戸国際会館，参加者：13名

12）懇　親　会

① 40. 5. 1：支部総会に伴なう懇親会，好文倶楽部，参加者：64 名

② 41. 1.18：会員懇親会，好文倶楽部，参加者：62 名

③ 41. 3.18：講師懇談会，好文倶楽部，参加者：30 名

13）映　画　会

① 40. 4.27：PC工事映画と見学の会，国際ホテル，映画：1編，見学先：阪神高速道路公団 未吉橋工事（D.W. 工法）・久之助橋東堀橋間工事（フレシネ式プレキャストブロック工法），参加者：102 名

② 40.10.16：第1回学生のための映画会，大阪市職員研修所映画：4編，参加者：60 名

③ 40.10.28：第2回学生のための映画会，神戸大学，映画：3編，参加者：135 名

④ 40.11. 6：第3回学生のための映画会，京都大学，映画：2編，参加者：90 名

⑤ 40.11. 9：第4回学生のための映画会，立命館大学，映画：3編，参加者：230 名

⑥ 40.11.27：第5回学生のための映画会，明石工業高等専門学校，映画：3編，参加者：130 名

⑦ 40.12. 4：第6回学生のための映画会，大阪工業大学，映画：6編，参加者：245 名

⑧ 40.12. 7：第7回学生のための映画会，立命館大学，映画：3編，参加者：100 名

⑨ 40.12.11：第8回学生のための映画会，京都大学，映画：3編，参加者：60 名

⑩ 41. 2.26：第9回学生のための映画会，近畿大学，映画：7編，参加者：8 名

（6）中国四国支部　支部長　袴田　恒夫君

1）役　員　会　　1 回

2）幹　事　会　　7 回

3）講　演　会

① 40. 8.28：第1回講演会，広島合同庁舎大会議室，講演数：4題，参加者：180 名

② 41. 2.11：第2回講演会，広島合同庁舎大会議室，講演数：5題，参加者：130 名

4）講　習　会

① 40.11.17：第1回講習会，香川県県庁ホール，題目：3題，参加者：200 名

5）見　学　会

① 40. 8.27：第1回見学会，見学先：福山日本鋼管KK工場，参加者：100 名

② 40.12. 3：第2回見学会，見学先：菅野ダム，参加者：40 名

6）映　画　会

① 40. 6.30：第1回映画会，水野組大会議室，映画：3編，参加者：150 名

② 40. 8.27：第3回映画会，福山日本鋼管KK，映画：4編参加者：100 名

③ 40.11. 1：第3回映画会，広島合同庁舎大会議室，映画：3編，参加者：200 名

7）そ　の　他

優秀卒業生表彰：40. 3

大学工学部4校，短期大学1校，高等学校 22 校

（7）西部支部　支部長　秋竹敏実君→神田九思男君

1）総　　会　41. 1.28，福岡大学平和台学舎

2）役　員　会　　1 回

3）幹　事　会　　4 回

4）大会担当機関打合会　4回（内1回幹事会と同時開催）

5）評 議 員 会　　1 回　（幹事会と同時開催）

6）講　習　会

① 40. 8.19：夏季講習会，雲仙ユースホステル，題目：9題参加者：156 名

7）研究発表会

① 40.12.10：新材料新工法発表会，明治生命ビル，発表数：9題，参加者：177 名

② 41. 1.28：研究発表会，福岡大学平和台学舎，発表数：48題，参加者：179 名

8）見　学　会

① 40. 8.20：見学会，見学先：天草架橋，参加者：156 名

9）映　画　会

① 40.11.16：第1回映画会，九州工大講堂，参加者：200 名

② 40.11.18：第2回映画会，大分県庁ホール，参加者：400 名

③ 40.11.20：第3回映画会，鹿児島県自治会館，参加者：250 名

10）そ　の　他

① 40. 4.　：カリフォルニア大学教授ヨセフヘンゼル氏特別講演会（後援）

② 40. 8.　：球磨川災害現地調査（九大　内田，椿，篠原の各教授）

③ 40.11.　：ガス圧接講習会（後援）

④ 40.11.　：岩石力学講習会（後援）

VII. 会員年間統計

年別＼会員別	正会員	特別会員 特級	1級A	1級B	1級C	1級D	2級	計	名誉会員	賛助会員	学生会員	合計
40. 3	16 336	18	16	46	214	341	43	678	54	30	2 791	19 889
41. 3	17 756	19	15	51	201	325	51	662	59	30	3 741	22 248
増　減	+1 420	+1	−1	+5	−13	−16	+8	−16	+5	0	+950	+2 359

議案 2. 昭和 40 年度決算報告書

（自昭和40年4月1日
至昭和41年3月31日）

銕理事よりつぎのとおり説明があり承認された。

I. 普 通 会 計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1. 会費	41 475 480	1. 用地費	809 536
1. 正会員	26 522 560	2. 事務費	25 123 528
2. 学生会員	2 437 256	1. 人件費	19 866 288
3. 特別会員	12 515 664	2. 備品消耗品費	1 431 533
2. 論文集購読料	1 933 578	3. 通信費	1 717 679
3. 刊行物売上	25 088 267	4. 水道光熱費 その他	2 108 028
1. 既刊行物	15 788 415	3. 会費徴収費	1 274 544
2. 新刊行物	9 299 852	4. 公租公課費	892 246
4. 行事参加費	2 362 500	5. 会議費	3 209 261
1. 講習会	2 124 000	1. 総会	1 260 291
2. 見学会	238 500	2. 役員会	1 948 970
5. 広告料	24 792 100	6. 支部交付金	4 966 222
1. 学会誌	18 930 800	7. 会誌発行費	29 659 058
2. 論文集	546 000	8. 論文集発行費	4 608 733
3. 学会名簿	3 516 100	9. 名簿発行費	6 562 162
4. その他	1 799 200	10. 刊行物経費	15 572 869
6. 預金利子その他	2 478 295	1. 既刊行物	10 862 498
7. 委託研究費	34 221 052	2. 新刊行物	4 710 371
8. 印税	906 300	11. 行事費	3 096 179
9. 図書館使用料	493 955	1. 講演会	1 015 435
10. 名簿協力金	1 638 656	2. 講習会	1 806 774
11. 雑収入	210 751	3. 見学会	273 970
12. 繰越金より組入	2 733 882	12. 土木賞費	462 923
		13. 調査研究費	4 390 430
		14. 委託研究経費	24 347 609
		15. 施設維持費	16 280
		16. 引当金	2 500 000
		17. 渉外費	75 630
		18. 広報費	427 326
		19. 雑費	466 837
		20. 予備費	0
		21. 委託研究費残額繰越 (預り金勘定に保留)	9 873 443
合計	138 334 816	合計	138 334 816

繰越金内訳：前年度より繰越額（累計） 10 939 026
39 年度分一般基金へ組入(利子の一部) 13 643
当年度一般会計へ組入 2 733 882
次年度へ繰越額 8 191 501

II. 吉田賞会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
株式配当金	1 980 000	賞金	50 000
信託預金利子	213 962	奨励金	1 000 000
銀行預金利子	37 576	賞牌製作費	62 700
東京電力株券売却益金	1 497 754	受賞者旅費	140 660
前年度より繰越金	906 351	論文審査料	3 360
		委員会費	72 730
		事務費	42 700
		雑費	7 600
		東京電力増資新株式払込	1 499 281
		次年度へ繰越金	1 756 612
合計	4 635 643	合計	4 635 643

III. 50 周年記念事業決算報告書 (昭和 41 年 3 月 31 日)

科目	予算額	決算額
収入の部		
寄付金	70 000 000	73 843 409
銀行預金利子	400 000	263 819
記念行事収入	800 000	360 500
記念出版物	4 990 000	6 575 157
棚卸図書代		1 349 400
計	76 190 000	82 392 285

科目	予算額	決算額
支出の部		
土木図書館建築費	45 000 000	43 593 568
図書購入費	5 000 000	5 168 631
図書館整備費	2 500 000	1 460 999
記念行事費	5 600 000	3 778 856
記念出版物費	14 990 000	19 770 333
諸経費	3 100 000	2 965 395
計	76 190 000	76 737 782
差引残余金		5 654 503

IV. 貸借対照表 (昭和 41 年 3 月 31 日現在)

資産の部 (借方) 科目	金額	負債の部 (貸方) 科目	金額
1. 現金	154 409	1. 基金	30 264 697
2. 預金	25 457 323	1. 基金	7 786 656
3. 有価証券	30 379 811	2. 吉田博士記念基金	22 478 041
4. 売掛金	3 902 566	2. 事務所及設備元入金	9 609 297
5. 未収入金	11 292 660	3. 図書館建設元入金	39 211 029
6. 棚卸図書	9 298 760	4. 引当金	3 008 174
7. 仕掛品	5 828 995	5. 未払金	6 579 220
8. 仮払金	28 426	6. 預り金	16 064 520
9. 立替金	1 973 311	7. 前受金	2 956 556
10. 前払金	528 699	8. 仮受金	14 934 457
11. 建物及諸施設	40 643 072	9. 吉田賞資金	1 756 612
12. 什器及備品	8 742 534	10. 50 周年記念会計	5 654 503
		11. 普通会計繰越金	8 191 501
合計	138 230 566	合計	138 230 566

V. 財産目録 (昭和 41 年 3 月 31 日現在)

資産の部 科目	金額	負債の部 科目	金額
1. 現金	154 409	1. 未払金	6 579 220
2. 預金	25 457 323	2. 預り金	16 064 520
3. 有価証券	30 379 811	3. 前受金	2 956 556
4. 売掛金	3 902 566	4. 仮受金	14 934 457
5. 未収入金	11 292 660	5. 減価償却引当金	2 173 166
6. 棚卸図書	9 298 760	6. 純資産	95 522 647
7. 仕掛品	5 828 995		
8. 仮払金	28 426		
9. 立替金	1 973 311		
10. 前払金	528 699		
11. 建物及諸施設	40 643 072		
12. 什器及備品	8 742 534		
合計	138 230 566	合計	138 230 566

VI. 仮　勘　定（昭和41年3月31日現在）

借方 科目	金額	貸方 科目	金額
仮払金	28 426	未払金	6 579 220
立替金	1 973 311	預り金	16 064 520
前払金	528 699	前受金	2 956 556
		仮受金	14 934 457
合計	2 530 436	合計	40 534 753

VII. 引　当　金（昭和41年3月31日現在）

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1. 前年度繰越額	2 273 166	1. 引当金取崩額	1 764 992
1. 減価償却引当金	1 673 166	1. 退職手当引当金	1 164 992
2. 名簿発行引当金	600 000	2. 名簿発行引当金	600 000
2. 本年度受入	2 500 000	2. 次年度へ繰越	3 008 174
1. 退職手当引当金	2 000 000	1. 退職手当引当金	835 008
2. 減価償却引当金	500 000	2. 減価償却引当金	2 173 166
合計	4 773 166	合計	4 773 166

VIII. 基　金　内　訳（昭和41年3月31日現在）

基金名称	基金額
1. 故古市公威 } 両博士記念基金	25 979
〃 沖野忠雄 } 両博士記念基金	
2. 〃 白石直治 博士 〃	23 032
3. 〃 山崎鉉次郎 〃 〃	2 445
4. 〃 原田貞介 〃 〃	4 770
5. 〃 広井勇 〃 〃	15 333
6. 〃 小川梅三郎 〃 〃	1 610
7. 〃 富田保一郎 〃 〃	806
8. 〃 石黒五十二 〃 〃	10 269
9. 〃 近藤虎五郎 〃 〃	12 874
10. 〃 中島鋭治 〃 〃	4 771
11. 〃 阪田貞明 〃 〃	1 793
12. 〃 岡崎芳樹 〃 〃	2 853
13. 〃 太田円三 〃 〃	3 765
14. 〃 阪本雅雄 〃 〃	871
15. 〃 川上浩二郎 〃 〃	1 196
16. 〃 中山秀三郎 〃 〃	2 408
17. 〃 岡崎文吉 〃 〃	1 510
18. 〃 野口誠 〃 〃	1 188
19. 〃 中川吉造 〃 〃	3 556
20. 〃 黒河内四郎 〃 〃	1 078
21. 〃 広井勇 〃 土木賞牌基金	746
22. 〃 古市公威 〃 〃	610
23. 〃 来島良亮 〃 〃	604
24. 〃 中山秀三郎 〃 〃	601
25. 〃 物部長穂 〃 〃	711
26. 〃 藤井真透 〃 記念基金	101 403
27. 〃 真田秀吉 〃 } 記念基金	709 277
〃 谷口三郎 工学士 } 記念基金	
〃 青山士 〃 } 記念基金	
28. 日本発送電株式会社	5 000 000
29. 諸積立金	1 822 901
30. 関西支部維持基金	27 696
31. 吉田徳次郎博士記念基金	22 478 041
合計	30 264 697

監　査　報　告　書

上記昭和40年度決算報告書（普通会計，吉田賞会計，50周年記念事業会計），貸借対照表，財産目録，付属明細表を監査の結果適正妥当と認めます。

昭和41年5月6日

監事　井関正雄 ㊞

残　余　金　処　分

下記の通り残余金を処分することが承認された。

摘要	金額
残余金	5 654 503
日本土木史（昭和16年より昭和40年まで）編集準備金	4 305 103
一般会計図書購入費へ繰入	1 349 400
計	5 654 503

議案 3. 名誉会員の推挙

岡部会長よりつぎのとおり候補者の推せんがあり，承認されたので新名誉会員の紹介があり，当日出席の田中吉郎君に推挙状が渡された。

名誉会員（50音順）

大島太郎君　三井建設KK顧問
田中吉郎君　九州大学名誉教授
成瀬勝武君　日本大学教授

推挙状を受ける田中新名誉会員（右）

■報告　評議員会の決議事項

1. 第51回通常総会提出議案その他：前掲省略　40. 5.12 定例評議員会にて可決

2. 土木学会規則の一部改正：規則第34条　土木賞を改め，土木学会賞とし表彰制度を改正する　書面により全評議員の賛否を求める。40. 8. 2 可決

説明する羽田専務理事

通常総会会場風景

3．土木学会規則の一部改正：規則第11条　会費を改正　40.8.2 臨時評議員会にて可決

4．役員候補者選考内規の一部改正：定款改正により副会長の定員を4名と改めたことにより，役員の選出区分を改正　40.12.28 臨時評議員会にて可決

5．昭和41年度事業計画および予算：41．3.30 定例評議員会にて可決

41年度事業計画

学術，技術の進展を図るため，各分野の調査研究を活発に行ない，学会誌，論文集の内容充実，改善および新刊図書の刊行を図り，研究発表会，講演会，講習会，見学会等の行事をさかんにし，海外との連けいを一層密にして，学術技術および土木事業の進歩，発展に寄与する。

また，正会員および特別会員の増加についても積極的に努力する。

本年度の主なる事業は，つぎのとおりである。

1）総　　会　41．5．27　札幌市
　昭和40年度事業報告および決算報告
　名誉会員の推挙
　評議員会の議決事項の報告
　土木学会賞および吉田研究奨励金の授与
　新理事および監事の紹介

2）評議員会
　4月末日まで　半数改選
　5月　　定例会議
　　総会提出議案の審議
　42年3月　　定例会議
　　昭和42年度事業計画および予算の決定

3）理事会
　毎月1回　　会務決定
　4月末日まで　理事，監事半数改選

4）支部長および支部幹事長会議：不定期　3回

5）各種委員会

1．表彰委員会：土木学会賞の募集，功績賞，技術賞の選考，決定，論文賞，吉田賞の調整，決定を行なう。

2．論文賞選考委員会：論文賞の選考を行なう。

3．吉田賞選考委員会：吉田賞の選考および吉田研究奨励金被授与者の選考，決定を行なう。

4．田中賞選考委員会：田中賞の選考を行なう。

5．学術講演連絡委員会：年次学術講演会および夏期講習会等の企画，調整をするほか，各委員会と連絡をとり行事の企画，調整を行なう。

6．大学土木教育委員会：既刊土木技術者の活躍と大学土木教育の資料をもとに大学土木教育についての調査研究を行なう。

7．高校土質教育研究委員会：高校土木教育の調査研究ならびに既刊土木実験指導書，土木材料実験指導書の改訂および水理実験指導書の編集を行なう。

8．会誌編集委員会：土木学会誌51巻5号～52巻4号の編集を行ない，内容の充実をはかる。

9．論文集編集委員会：土木学会論文集128号～140号の編集を行ない，内容の充実をはかる。

10．文献調査委員会：内外文献の調査，整理を行ない，文献目録および抄録の作成ならびに海外の学術展望記事を土木学会誌に掲載する。

11．土木図書館運営委員会：図書，文献資料，フィルム等の収集，整備，その他土木図書館の運営を審議する。

12．出版企画委員会：既刊，新刊の出版物の企画，調整を行なう。

13．土木工学叢書委員会：土木工学叢書の企画，調整を行なう。

14．土木製図基準改訂委員会：既刊〝土木製図基準(Ⅰ)〟の全面的改訂を行なう。

15．日本土木史編集委員会：昭和16年より昭和40年までの日本土木史の編集を行なう。

16．わかり易い土木講座編集委員会：わかりやすい土木講座の編集を行ない，全21巻中約半数の刊行を行なう。

17．海外連絡委員会：Civil Engineering in Japan '66 等を編集し，わが国の土木工学を海外にPRするほか，国際会議の連絡等海外との交流をはかる。

18．水理委員会：水理学会に関する調査研究を行なうほか，第3回水工学夏期研修会を8月上旬東京で，また，第11回水理講演会を2月東京で開催する。UNESCOのI.H.D(International Hydrological Decade) 計画に協力，第12回国際水理会議を1969年日本で開催に協力する。

19．海岸工学委員会：海岸工学に関する調査研究を行なうほか，第10回海岸工学国際会議を東京において9月7日～10日に開催することに協力，第13回海岸工学講演会を仙台で12月に開催し，その講演集および英文論文集(Coastal Engineering in Japan Vol. 9) を編集する。また，既刊海岸保全施設設計便覧の改訂に努力する一方，関係の委託研究委員会に協力する。

20．耐震工学委員会：耐震工学の調査研究，国内国外の連絡，日本地震工学シンポジウム (1966) を東京で11月15日に地震学会，土質工学会，日本建築学会と共催する。土木振動学便覧編集小委員会において便覧を編集し，昭和41年度夏期講習会テキストとして一般会員に講習する。新潟震災調査委員会，本州四国連絡橋技術調査委員会，その他関係の委託研究委員会に協力する。

21．新潟震災調査委員会：新潟地震震害調査報告を編集する。

22．橋梁構造委員会：橋梁構造工学の調査研究を行なうほか，I.A.B.S.Eとの連絡，第13回橋梁構造研究発表会を東京で日本学術会議および日本建築学会と共催する。また，鋼材関係JISの調査研究を行なう一方，関係の委託研究委員会に協力する。

23．トンネル工学委員会：トンネル工学の調査研究としてトンネル標準示方書の改訂にそなえ，シールド工法小委員会，トンネル土圧調査小委員会，トンネル工事の実態調査小委員会，トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する小委員会の調査結果を中心に第3回トンネル工学に関するシンポジウムを東京で開催する。

24．岩盤力学委員会：岩盤力学に関する調査研究を行なう一方〝岩盤力学〟を編集する。第4回岩盤力学シンポジウムを11月に東京で開催するほか国外国内の連絡をはかる。また，岩盤力学を中心に講習会を開催する予定。

25．衛生工学委員会：衛生工学の調査研究，国内国外の連絡を行なう一方，第3回衛生工学研究討論会を11月に東京で開催する。日本学術会議主催で8月に東京において開催される第11回太平洋学術会議に協力する。

26．原子力土木技術委員会：土木工学における原子力に関する調査研究を行なう。原子力関係学協会と第5回原子力研究総合発表会を共催する。

27．コンクリート委員会：コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する調査研究を小委員会，分科会で活発に行なう。既刊〝コンクリート標準示方書〟および同解説を改訂刊行する。また

従来に引続きプレストレスト コンクリート，フライアッシュ，軽量骨材，異形鉄筋等，コンクリートに関する委託研究を行なう。随時，コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する講演会，講習会，シンポジウム等を開催し，啓発をはかる。また，コンクリート・ライブラリー数編を編集する一方，日本コンクリート会議に協力する。

28．委託を予想される調査研究：

（1） 本州四国連絡橋技術調査委員会：建設省・日本鉄道建設公団の共同委託（継続）により，本州四国連絡橋に関する技術的調査研究を行なう。

（2） コンクリート委員会関係：

（イ） 鋼材倶楽部から委託（継続）

a 太径鉄筋の使用方法に関する調査研究を行なう。

b 異形鉄筋設計例集の改訂を行なう。

（ロ） フライアッシュ協会から委託(継続)　フライアッシュを混入したコンクリート中における鉄筋のさびに関する長期調査研究を行なう。

（ハ） 軽量骨材製造3社から委託(継続)　軽量骨材に関する実験研究を行なう。

（ニ） 各種ＰＣ工法設計施工指針の作成を行なう。

（3） 海岸工学委員会関係：

（イ） 農林省北陸農政局から委託(継続)　河北潟干拓河口工事に関する調査研究を行なう。

（ロ） 農林省中国四国農政局から委託(継続)　中海干拓および淡水化事業に関する調査研究を行なう。

（4） 耐震工学委員会関係：

日本国有鉄道から委託(継続)　軟弱地盤における耐震設計に関する調査研究を行なう。

（5） トンネル工学委員会関係：

鋼材倶楽部から委託(継続)　トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する調査研究を行なう。

（6） 行　　事：

4月・	第3回理工学における同位元素研究発表会	(共催東京)
5月・	第21回年次学術講演会および見学会	(北海道)
8月・	第3回水工学研修会	(東　京)
	夏期講習会「土木工学における振動と耐震の諸問題」	(〃)
9月・	第10回海岸工学国際会議	(共催東京)
	第16回応用力学連合講演会	(〃)
	第10回材料試験連合講演会	(〃)
10月・	秋のエキスカーション	(場所未定)
	第15回レオロジー討論会	(共催東京)
11月・	第13回橋梁構造研究発表会	(〃)
	第2回国土開発映画コンクール	(東　京)
	第3回衛生工学研究討論会	(〃)
	第13回海岸工学講演会	(仙　台)
	第4回岩盤力学に関するシンポジウム	(東　京)
	日本地震工学シンポジウム(1966)	(共催東京)
	風に関するシンポジウム	(〃)
	第3回トンネル工学シンポジウム	(東　京)
	改訂コンクリート標準示方書講習会	(場所未定)
2月・	第11回水理講演会	(東　京)
	第5回原子力研究総合発表会	(共催東京)

その他，随時講演会，シンポジウム，講習会，見学会，映画会等を開催する。

各支部においても，講演会，シンポジウム，講習会，見学会，映画会，学生のための催し等を定期または随時開催する。

昭和41年度予算

（自昭和41年4月1日　至昭和42年3月31日）

普通会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1．会費	55 000 000	1．用地費	909 000
1．正会員	34 680 000	2．事務費	30 865 000
2．学生会員	3 570 000	1．人件費	24 665 000
3．特別会員	16 750 000	2．備品消耗品費	1 750 000
2．論文集購読料	3 230 000	3．通信費	2 350 000
3．刊行物売上代	36 758 000	4．水道光熱費 その他	2 100 000
1．既刊行物	9 092 000	3．会費徴収費	1 405 000
2．新刊行物	27 666 000	4．公租公課	1 027 000
4．行事費	4 595 000	5．会議費	3 750 000
1．講習会	4 275 000	1．総会	1 300 000
2．見学会	320 000	2．役員会議	2 450 000
5．広告収入	20 550 000	6．支部交付金	7 000 000
1．学会誌	18 500 000	7．会誌発行費	31 168 000
2．論文集	500 000	8．論文集発行費	4 079 000
3．その他	1 550 000	9．刊行物費	22 343 000
6．預金利子その他	1 560 000	1．既刊行物	3 878 000
7．委託研究費	26 900 000	2．新刊行物	18 465 000
8．印税	657 000	10．行事費	4 570 000
9．図書館使用料	480 000	1．講演会	1 130 000
10．雑収入	10 000	2．講習会	2 820 000
		3．見学会	320 000
		4．映画コンクール	300 000
		11．土木学会賞費	1 300 000
		12．調査研究費	7 670 000
		13．委託研究費	22 500 000
		14．図書整備費	1 000 000
		15．施設維持費	50 000
		16．引当金	5 300 000
		17．渉外費	300 000
		18．広報費	300 000
		19．雑費	350 000
		20．予備費	3 854 000
合計	149 740 000	合計	149 740 000

吉田賞会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1．東京電力株配当金	1 943 000	1．賞金	100 000
2．貸付信託預金利子	258 000	2．奨励金	1 000 000
3．銀行預金利子	37 000	3．賞牌	5 000
4．前年度より繰越金	1 744 000	4．受賞者旅費	160 000
		5．委員会費	90 000
		6．論文審査費	110 000
		7．事務費	70 000
		8．雑費	5 000
		9．前年度へ繰越金	2 442 000
	3 982 000		3 982 000

日本土木史編集会計

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
1．50周年記念事業残余金繰入	4 305 000	1．日本土木史編集委員会費	300 000
2．利子収入	150 000	2．次年度へ繰越高	4 155 000
	4 455 000		4 455 000

■表　　彰

まず表彰委員会委員長の岡部会長より別掲のような功績賞ならびに技術賞の受賞経過および理由の説明があり，つづいて論文賞の受賞経過および理由を板倉論文集選考委員会委員長よりまた吉田賞の受賞経過および理由を福田吉田賞選考委員会委員長より，それぞれ説明があり，つぎのとおり土木学会賞の表彰が行なわれた。

1．土木学会賞の授与

功　績　賞：

内海清温君　　鈴木雅次君

技　術　賞：

東海道新幹線の建設　　日本国有鉄道 殿

黒部川第四発電所の建設　　関西電力株式会社 殿

論　文　賞：

論　文　賞

○ Thrusts Exerted Upon Composite-Type Breakwaters by the Action of Breaking Wavs.
(Coastal Engineering in Japan Vol. 7, 1964)

○ Virtual Mass and the Damping Factor of the Breakwater During Rocking, and the Modification by Their Effect of the Expression of the Thrusts Exerted Upon Breakwaters by the Action of Breaking Waves.
(Coastal Engineering in Japan Vol. 8, 1965)
林　泰造君

○ 垂直控え杭の横抵抗
(土と基礎 Vol. 13, No. 5, 40年5月)

○ 杭の横抵抗の新しい計算法
(港湾技術研究報告 Vol. 2, No. 3, 39年3月)
久保浩一君

論文奨励賞

○ 非可逆的熱力学にもとづく熱の影響を考慮した圧密理論
(土木学会論文集 113号, 40年1月)

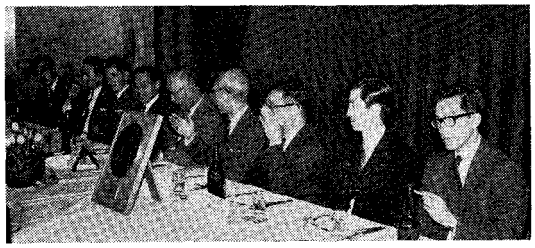
○ 粘弾性的物質の変形係数におよぼす荷重速度の影響
(土木学会論文集 117号, 40年5月)
石原研而君

○ 航空写真と電子計算機による道路路線の設計法
(土木学会論文集 106号, 39年6月)
中村英夫君

○ Vibrational Characteristics and Asesmic Design of Sub-marged Bridge Piers.
(京都大学工学部紀要 27巻1号, 40年1月)
土岐憲三君

受賞者懇談会における受賞者各位

(左より土岐，石原，赤塚，吉田(関電)，鈴木，内海，藤井（国鉄），林，中村の各氏)



吉田賞

○ 港湾工事におけるプレパックドコンクリートの施工管理に関する基礎研究
(港湾技術研究所報告 4巻6号, 40年7月)
赤塚雄三君

2．吉田研究奨励金の授与

○ コンクリートの組成構造と弾性係数に関する研究
加藤清志君

○ 二方向軸力を受けるコンクリートのクープについて
石川達夫君

○ 軟弱地盤上のコンクリート不静定構造物の変状調査と対策
広瀬卓蔵君

○ 新東京国際空港のコンクリート舗装に関する研究
森口　拓君

○ 鉄道橋における桁座の設計施工に関する研究
柳田真司君
小池　晋君
音羽立男君

○ プレキャスト部材による，プレストレストコンクリート梁の合成方法に関する基礎研究
田辺忠顕君

○ PC構造物の耐震性に関する研究
加藤茂美君
矢島哲司君

○ 鉄筋コンクリート部材引張部のひびわれに関する基礎研究
植田紳治君
渡辺正法君

○ プレパクドコンクリートにおける打継目の施工方法に関する研究　　岩崎訓明君

■新任理事および監事の紹介

岡部議長よりつぎのとおり41年度新役員の紹介があった。

	新任	留任	職名
会長	篠原武司君		日本鉄道建設公団副総裁
副会長		水野高明君	九州大学教授
	酒井忠明君		北海道大学教授
	畑谷正実君		水資源開発公団理事
	最上武雄君		東京大学教授
専務理事		羽田巌君	社団法人土木学会
理事		青木康夫君	建設省四国地方建設局長
	粟田亀造君		名古屋市土木局長
	飯吉精一君		鉄建建設(株)専務取締役
		内林達一君	(株)水野組専務取締役
	神田九思男君		建設省九州地方建設局長
		久保慶三郎君	東京大学教授
	米谷栄二君		京都大学教授
		近藤市三郎君	(株)大林組常務取締役
	堺　毅君		日本大学教授
		佐藤友光君	東京電力(株)建設部土木課長
		多谷虎男君	東北大学教授
		友田清三君	阪神水道企業庁長
		成岡昌夫君	名古屋大学教授
	広瀬可一君		首都高速道路公団計画部長

	新任	留任	職名
理事		藤田 博愛君	東京都水道局利根川建設本部長
		町田 利武君	北海道開発局建設部長
		耳野 慎君	帝都高速度交通営団建設部設計第2課長
	村上 正君		九州大学教授
		森垣 常夫君	日本国有鉄道審議室調査役
	森本 茂男君		運輸省港湾局臨海工業地帯課長
	横戸 実君		建設省東北地方建設局企画室長
	横道 英雄君		北海道大学教授
	吉田 登君		関西電力（株）支配人
	渡辺 隆二君		建設省河川局治水課長
監事		井関 正雄君	(株)熊谷組専務取締役
	橘 好茂君		(株)鴻池組常務取締役

以上をもって議事を終了し，岡部議長より謝辞があり，北海道支部の表彰が行なわれ，つづいてつぎの映画が上映され17時15分散会した。

川の上を走る高速道路（首都高速道路公団提供）

人造港苫小牧（北海道開発局提供）

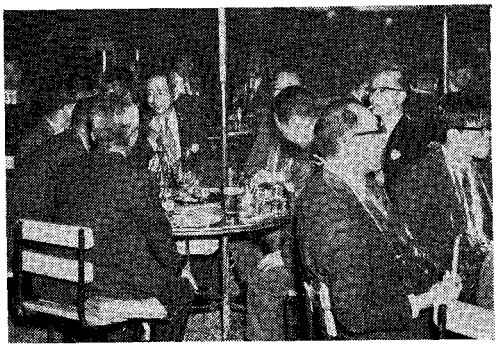
懇親会

5月28日（土）18時より，札幌市の北海道神宮裏，宮の森ガーデンにおいて，懇親会が行なわれた。当日の午前中は，クラーク会館にて総合講演会，午後1時から5時までは北大において，年次学術講演会の第1日目がすでに行なわれ，本大会のムードが盛りあがってきたところで，懇親会という段取りであったので，北大の学術講演会に参加していた会員の多くは，北大から宮の森ガーデンへの7台の専用バスによって，順次入場，また，各界の名士や学識経験者の多数も招待参加で，総数約500名という盛会になった。

まず遊佐志治磨大会実行委員長の歓迎の挨拶，つづいて，岡部三郎前会長，篠原武司新会長の挨拶があり，畑谷正実新副会長の発声で乾杯開宴となった。5月末といえば，札幌にとっては，絶好の気候であり，宮の森ガーデンといえば，自然の林の一角をきりひらいて作られた屋外宴会場として札幌でも著名なところ，ここで，北海道の原始の昔を偲びながら，サッポロビールの飲み放題，ジンギスカン料理の食べ放題という趣向，まずまず，土木学会会員のムードそのままの懇親会となった。札幌でいうジンギスカン料理というのは，コンロの炭火の上に鉄板をのせ，その上で，羊の肉をジュージュー焼きながら，タレ汁をつけながら食べるというやり方，油がはねるので，うすいビニールの前掛けを各人首からぶらさげる。北海道では，このジンギスカン料理が非常に好まれているので，この数年で北海道内の羊の肉が不足し，現在は，はるばるオーストラリアから羊を輸入しているのだそうである。人間の食欲の偉大なることあに，土木学会会員のみならんや，というところか。

やがて，地元の保科麗山による演芸が披露され，「そーらん節」なども，深い林の奥にこだまして，会はますますさかんになり，和やかな雰囲気が会場一杯にみちあふれるといった感じであった。最後に，酒井忠明新副会長の発声で万歳三唱，19時30分頃，盛大に宴をとじ，会場前に用意されていた7台の専用バスによって，順次，参加者は札幌市の都心に送りとどけられ，散会となった。近年にない，壮大な自然味あふれる懇親会であったと，非常によい評判であった。（北海道大学 渡辺 昇・記）

懇親会会場風景



懇親会に披露された演芸

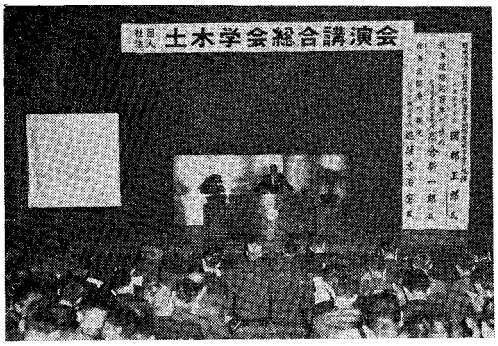
第21回年次学術講演会

今年の年次学術講演会は，まず5月28日午前中のクラーク会館における総合講演を皮切りに，同日午後および29日には一般講演が北海道大学の理学部，医学部，工学部，教養学部の12会場に分かれて行なわれ，出席者も多く非常に盛会だった。また同日は総会，年次学術講演会に関するアンケート用紙をくばり，20項目について参加者の意見を聞き，今後の参考とすることにした。

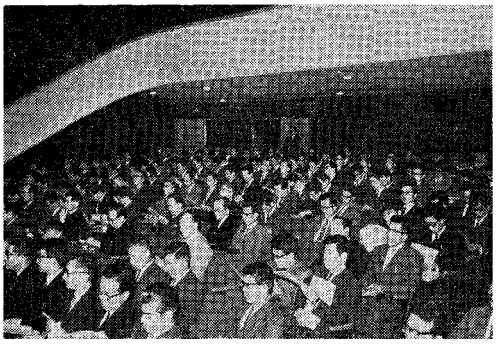
総合講演会

総合講演会は，5月28日（土）午前9時より12時15分まで北大構内クラーク会館において行なわれた。学生会館としては，わが国でも珍しいモダンな設備を備えているといわれるクラーク会館は，美しい緑の芝生の中にあって，土木学会総合講演会場としても，また適切な講演会場としての雰囲気を備えていた。講演の始まる頃には，多くの会員がつめかけ，収容人員600名といわれる講堂は，ほとんど満員となり，定刻，北海道開発局建設部長 町田利武氏の司会により，まず，土木学会前会長 岡部三郎氏の「日本港湾の特異性と臨海工業地帯造成の推移」と題する演題から始められた。この講演は，わが国の古代天平時代の石材による護岸・防波堤の築造の歴史から，江戸時代，明治時代に至る港湾造成の経過をのべ，やがて，わが国近代工業港がいかにして開発されたかを，多くの資料によって説明され，最後に，岡部氏の長年の経験を通して，今後の日本港湾のあり方を述べられ，聴衆に多くの感銘を与えた。

総合講演会会場



同　　上



ついで,北海道大学名誉教授 農学博士 高倉新一郎氏の「北海道の100年」と題する講演が行なわれた。北海道は明治2年明治政府による開拓使が置かれるまでは，蝦夷地と呼ばれており，明治2年に北海道と改められ，昭和43年に満100年を祝うに至っているが，この間，人跡未踏の原野を，今日の近代的北海道にしあげるまでの日本人，特に，北海道民の並々ならぬ努力のあとを，高倉氏特有の豊富な話題によって，満員の聴衆を魅了された。最後に，今回の土木学会大会実行委員長であり，北海道開発局長である遊佐志治磨氏の「北海道開発の現況」と題する講演が行なわれた。北海道開発庁およびその実施機関である北海道開発局は，昭和25年および26年にそれぞれ,北海道における資源の総合的な開発を目的として，設置されたが，その経過の概要より始めて，第1次5カ年計画，第2次5カ年計画，第2期北海道総合開発計画の推進にともなって，いかに，北海道開発の効果があがってきているかを，多くの資料にもとづいて解説され，遊佐氏の並々ならぬ気迫とともに，日本のホープとしての北海道の地位が，多くの聴衆に強く印象づけられた。

約3時間にわたる3氏の講演中，熱心にメモをとる方々も多く見うけられ，講演会は非常に有意義であった。12時15分，参加者全員の拍手によって，盛会裡に終了し，散会した。

一般講演

本年の一般講演の発表論文数は，第I部門(応用力学・構造力学・橋梁等) 153編，第II部門(水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等) 165編，第III部門(土質力学・基礎工学・土木機械・施工等) 133編，第IV部門(鉄道・トンネル・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・交通・都市計画・測量等) 155編で，計606編あり，昨年より53編も増え，これを12の会場にわけて講演発表が行なわれた。

講演会場はつぎのとおりであった。

第I部門　北大教養部(E 209号室，N 304号室，N 302号室)

第II部門　北大医学部(西講堂，東講堂，南講堂)

第III部門　北大理学部(S 205号室，N308号室)

第IV部門　北大工学部(101号室，102号室，電子第一講堂，電子第二講堂)

本年の発表形式は，各部門ごとに一任した結果，第I部門では，一般報告と個人発表とを併用，一般報告者には年長の学識経験者を，司会者には新進の若手陣を配し，第II部門では，全部一般報告形式を採り，司会者に年長の学識経験者を，一般報告者に新進の若手陣を配して，討議討論に力を入れた。第III部門では，全部一般報告形式を採り，司会者に年長の学識経験者を，一般報告者に新進の若手陣を配した。第IV部門では，1部分だけ一般報告形式をとり，大部分の論文は，個人発表形式をとった。

このような発表形式の長短については，昨年にひきつづき，多くの議論が出ており，来年度はどのようにしたらよいかの参考にするため，会場内において，多くの参加者からアンケートを求めたので，いずれその結果がはっきりすることと思う。

各部門における司会者，一般報告者は，つぎのとおりであった。

第I部門

司会者：

福本　嗇士・岡村　宏一・山本　稔・小堀　為雄
平井　一男・佐武　正雄・栗林　栄一・川本　朓万
伊藤　学・小松　定夫・西堀　忠信・角田　和夫
波多野昭吾・倉西　茂・外崎　忍・島田　静雄
青木　弘・小西　輝久

一般報告者：

奥村　敏恵・四野宮哲郎・酒井　忠明・岡元　北海
久保慶三郎・能町　純雄・倉田　宗章・小西　一郎
平井　敦・橘　善雄・山崎　徳也・大地　羊三

第II部門

司会者：

田中　茂・吉川　秀夫・竹内　俊雄・石原　安雄
境　隆雄・伊藤　剛・永井荘七郎・古谷　浩三
久宝　保・篠原　謹爾・椿　東一郎・横田　周平
板倉　誠・宮北　敏夫・林　猛夫・庄司　光
海淵養之助・野田　匡六

一般報告者：

芦田　和男・岸　力・足立　昭平・荒木　正夫
角屋　睦・山岡　勲・春日屋伸昌・中川　博次
林　泰造・鈴木　篁・柿沼　忠男・岩崎　敏夫
室田　明・永井荘七郎・細井　正延・尾崎　晃
岩垣　雄一・椹木　亨・堀川　清司・畑中　元弘
土屋　昭彦・日野　幹雄・田中　茂・上田年比古
嶋　祐之・杉木　昭典・岩井　重久・合田　健
左合　正雄・徳平　淳・寺島　重雄

第III部門

司会者：

松尾新一郎・真井　耕象・三瀬　貞・最上　武雄
柴田　徹・北郷　繁・村山　朔郎・宮川　勇
西田　義親・河上　房義・谷本　喜一・河野　文弘

一般報告者：

山内　豊聡・森　麟・大平　至徳・久野　悟郎

北郷　繁・三笠　正人・山口　柏樹・赤井　浩一
伊藤　冨雄・三木五三郎・渡辺　隆・島山　直隆
網干　寿夫・竹中準之介・後藤　尚男

第IV部門

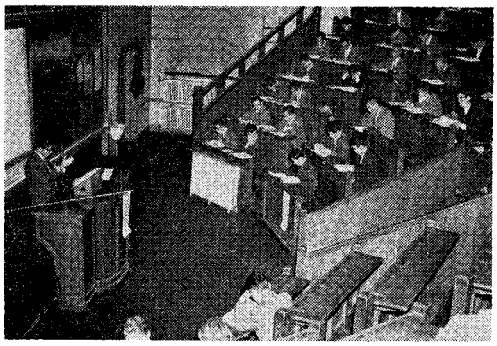
司会者：

村田　二郎・徳光　善治・西林　新蔵・小林　一輔
藤田　嘉夫・徳田　弘・尾崎　訒・永倉　正
西沢　紀昭・前川　静男・菅原　照雄・小山　道義
鈴木　忠義・加来　照俊・天野　光三・五十嵐日出夫
越　正毅・滝淵　清実

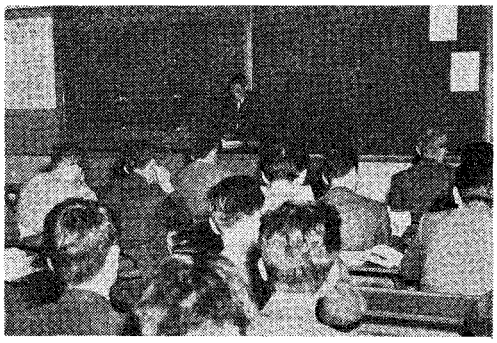
一般報告者：

堺　毅

一般報告の状況



講演発表状況



聴講者調べ

		5月28日(土)午後		5月29日(日)午前		5月29日(日)午後	
		13.00～15.00	15.10～17.10	9.00～10.30	10.40～12.00	13.00～15.00	15.10～17.10
第I部門	教N-302	100人	50人	100人	70人	50人	30人
	教N-304	100人	70人	150人	150人	50人	30人
	教E-209	200人	200人	200人	200人	120人	120人
第II部門	医東講堂	200人	200人	120人	120人	120人	50人
	医南講堂	120人	120人	100人	100人	100人	50人
	医西講堂	100人	100人	100人	100人	100人	100人
第III部門	理S-205	130人	130人	120人	120人	100人	100人
	理N-308	150人	120人	120人	120人	100人	50人
第IV部門	工電子第一講義室	130人	130人	100人	110人	100人	50人
	工電子第二講義室	—	—	80人	90人	80人	50人
	工-102	110人	110人	—	—	—	—
	工-101	110人	110人	100人	110人	90人	50人

（北海道大学　渡辺　昇・記）

見学会

Aコース（札幌市内コース）

5月30日朝札幌テレビ塔下に集合したA班参加者は20数名と意外に少ない。少々時間待ちをして9時15分テレビ塔下を出発したバスは創成川に沿って雪印乳業の札幌工場へ向う。外はあいにくの雨のためバスガールの説明に実感がわかずただとまどう。しばらくしてバスは美しい花の咲き匂う雪印乳業札幌工場へ着く。ここで工場の案内係の指示にしたがい工場内の見学に入り，ガラス戸越しに作業工程をみる。まず，最初は牛乳のできるまでで，集乳された牛乳は，秤量—清浄化—冷却—貯乳—均質化—殺菌—びん詰へとつぎからつぎへと製品化されている。工場内は清潔に整理され，中で働いている人々は真白な作業衣をつけており気持ちよい。つづいて粉乳，アイスクリーム，チーズ，バター等の製品工程を見た一行は集会室に案内され，新鮮な牛乳と，アイスクリームの味を楽しみながらいろいろ説

雪印乳業についた一行

明を聞く。雪印乳業は，東京，札幌の本社のほかに支社1，事業所5，支店13，主要工場52をもつ大企業で飲用牛乳は全国生産の17.2%，バター58.5%，チーズ65.5%を占め，見学者は1日3000人を数えるとのことである。ここでだされた牛乳，アイスクリームの味は格別である。ここを10時30分ごろ出発し，つぎの見学先サッポロビールに向う。サッポロビールでは，ビールの歴史からビールのできるまでの説明を伺ったのち，工場に入り，発芽函—仕込槽—仕込釜—発酵槽—貯酒タンク—壜詰機—殺菌槽—札貼機の順に作業工程をみる。ここでは工場見学のあと集合室でビールのつぎ方，ビールののみ方の実地指導を受ける。われわれの見学の一行が予定より少なかったためかビールは1人1本以上ゆきわたる大サービス。ここも見学者は1日3000人を数えるとのこと。サッポロビールでは5月に第二工場が完成し，本工場の見学は5月中で打ち切り，6

サッポロビールにて

月からは第二工場のみ見学させるとのことである。札幌でのむビールは非常に美味であるが特殊な製造方法でもあるのかとの質問に対して，係員の答はビールの製造その他すべて東京の本社の指示にしたがっているので全国同一行程で行なっているのでそのようなことはない，しいてあげれば，札幌の緯度がビールのメッカ・ミュンヘン，ミルウォーキーと同じ北緯45°に位置しているためではなかろうかとのわかったようなわからない説明である。この工場では，ビールのほかに，シトロン，ジュース，コーラ，タンサンも製造しているとのことである。昼間からビールを飲みほろ酔い機嫌になった一行は11時30分にここを出，市内の観光コースに入る。雨がしとしとと降りつづく中を時計台，大通公園，高等裁判所等の市内の目抜通りを通過し操岩山に向う。操岩山は市の西南に位置し標高531 m の小高い山でロープウェイ，ドライブウェイ，スキー場等をそなえ，展望もすばらしく市民のよい行楽地とのことである。バスはゆっくりドライブウェイを山頂に向ってすすむ。途中で先ほどビールを飲みすぎたためか臨時停車をとなえる声があり一時ストップ，3分ほどして発車。間もなく山頂につく。山頂はかすみのため視界は全然きかずすぐ引きかえす。帰り途バスガールの声で車窓をながめるとライラックの花が美しい。バスは美しい中島公園を抜けて，ススキノ，狸小路の由来を聞きながら13時テレビ塔下にもどりすぐ解散した。学術演講会の2日間のほこりぽっい札幌市の印象とは違って，この日の見学会は落ち着いた緑と花の多い美しい，そしてアイスクリーム，牛乳，ビールのうまい札幌の印象を残してくれた。最後に北海道支部の関係各位および見学会に便宜を与えて下さった各位に紙上より厚くお礼申上げる。

（事務局　石塚・記）

B コース（登別・洞爺コース）

参加者は106名に達した。2台のバスは5月30日札幌テレビ塔下を9時に出発，国道36号線の上を千歳市を経て支笏湖に至り，さらに苫小牧王子製紙，苫小牧工業港，白老町，登別温泉で宿泊。翌31日登別温泉を9時出発，富士製鉄KK室蘭製鉄所，昭和新山，洞爺湖を経て国鉄洞爺駅で16時解散した。

（1） **支笏湖**——支笏，洞爺国立公園の一部で，北海道の主要都市に近接して交通の最も便利な地域にある点が観光地として有利である。幽すい神秘の湖として知られ，水面標高248 m，湖岸線の長さ40.0 km，面積76.2 km²，最大深度363.0 m である。その北岸には恵庭(エニワ)岳が1320 m，南に樽前山(1024 m)あり，山獄の間に横たわるカルデラ湖であり，「その景色は清絶である」という言葉が最もよくあてはまると思った。

（2） **苫小牧王子製紙**——紙の都として古くから知られている苫小牧市の王子製紙苫小牧工場は国鉄苫小牧駅の西南約1 kmにあり，新聞用紙は年産45万トンで全国の1/3を供給しており，新聞用紙のほか苫更，北斗グラビア紙，特印刷紙をつくっている。昭和39年8月現在で従業員数，男子2592名，女子194名計2786名である。

土地は71796 ha，建物342000 m²，主な機械設備は長網式抄紙機12台，平日日産1270トン，亜硫酸パルプ(SP)用機械は竪型固定式7台で1日容量の合計は196.9トンである。砕木パルプ(GP)用機械はマガジン型計16台，1日の能力計は702トン，ポケット型25台で1日の能力162.5トン合計864.5トンである。ケミカルパルプ(SCP)用機械は横型連続蒸解釜形式で2台。1日能力計139トンである。ケミグラウンドパルプ(CGP)用機械は冷アルカリ浸漬槽式で1日能力は320トンである。レファイナー砕木パルプ(RGP)用機械は1日能力120トンである。

自家発電所は水力発電所8カ所，認可出力計45150 kW，火力発電機6台，認可出力計43700 kW である。主なる厚生施設は社宅2014戸（内アパート568戸，耐寒住宅623戸），他に道内各地179戸，病院ベット数140床。このほか浴場，理髪所，寄宿舎，映画劇場，体育館，従業員食堂，従業員集会所，学生寮，野球グラウンド，テニスコートを所有している。使用樹種とパルプの区分は次表のようになる。

	樹種名	パルプ別	摘要
針葉樹	エゾ・トド	GP	丸太
	エゾ・トド・トウヒ	SP	チップ
	カラ松	RCP	チップ
広葉樹	カバ・ハン・セン他	SCP	チップ
	ナラ・カツラ・シコロ他	CGP	チップ

近代マスコミの源泉である新聞紙の用紙がこの寒冷な，勇払（ユウフツ）原野に建設された王子製紙の苫小牧工場から生産されるのを現実に見学して，感慨深いものがあった。なお1日に1200トンの紙を生産し，1日に3000 m³の水を使用するとのことである。

（3） **苫小牧工業港**——苫小牧港は直線状の漂砂海岸に防波堤を作り，広大な勇払原野を掘り込んだ人造港である。昭和26年度から昭和40年度まで事業費84億6383万円を投入し，このうち国費は79億8295万7000円である。今後昭和40～44年の5カ年計画（第一期工事）は76億円余である(昭和40年度は重複)。この事業費を投入して外港区，商港区，工業港区，漁港区を整備する計画である。昭和44年以降を第2期工事とする。

（a） 外港区は航路幅230 m，水深9 m，第2期工事として航路幅300 m，水深14 m の航路を計画している。この航路が完成すれば7万トンの船舶が出入できる。防波堤は東防波堤延長を1487 m とし，第2期工事には14 m 水深の航路と対応してさらに480 m 延長する計画である。西防波堤は汀線に直角の520 m と東防波堤に向う350 m の計870 m で39年度に完成した。

（b） 商港区……外港より北に掘り込んだ正面地区である。その東側を石炭岸壁，西側を雑貨岸壁とする。石炭岸壁はすでに1万トン3バースが完成しているが，引続き1万トン1バースが計画されている。1バース当り年間130万トン，3バースで400万トンの石炭を積出す計画である。雑貨岸壁としては1万トン3バース，5000トン1バースが計画され，このうち2バースがすでに完成しており，40年度は1バースのうち90.5 m を施工，この石炭岸壁と雑貨岸壁の間450 m は内港泊地とし，また外港航路から内港泊地の間の工事を実施中である。第2期工事には5000トン2バースと内港航路西側に10000トン3バースが計画されている。

（c） 工業港区……商港区から東方に直角分岐して水路を開き工業港区とし，入口部，主水路，船廻場とからなる。水深9 m，幅員150 m とし，拡幅，増深は第2期工事とする。この工業港区水路の両側に工場を立地させる計画である。

（d） 漁港区……室蘭から浦河までの220 km の沿岸には避難港すらなく，本港に漁港区が望まれていたので，西防波堤の基部に漁港区の建設を着手した。

（4） **白老町**——アイヌ語の「シラウ・オ・イ」(虻の・多い・所）である。安政2年この地方の警備を命ぜられた仙台藩が仙台陣屋を構えてから本州人の往来がふえ発展してきた。昭和40年6月にポロト湖畔にアイヌ部落の紹介のための施設を造り，観光客に踊りなどをみせている。尊長宮本氏は上手な日本語と

アイヌ語でアイヌの正しい姿を紹介している。スズランと黒ゆりをアイヌ人が売っていた。郵便で自宅まで送り届けるそうである。白老町長　浅利義市氏の好意で一行のために特別の踊りを追加されたことを感謝する。

白老町アイヌ部落にて

（5）**登別温泉**……北海道では最も有名な温泉であり，自然の驚異である。この地は四方を山で囲まれているので，夏は涼しく冬は比較的暖かい。湯は泡立ち，蒸気は雲のように立ちこめ，忘れ得ない思い出となる。温泉の湯は地獄谷の湯元から流れる硫黄泉のほか，酸性黄硫泉，明礬泉等，いろいろの種類の温泉があり，湯の湧出量は1時間に 136 m³（756 石）といわれている。一行の宿泊した第一滝本館は最高の設備，楽しいムードがあふれ，シアタースタイルの大食堂でエレクトーンの軽いタッチと「恋の勝負は待ったなし」などの歌謡ショーに加えて，ビールとムードに酔い，満足することができた。

（6）**富士製鉄 KK 室蘭製鉄所**……明治42年北海道炭砿汽船KKにより創設され，北海道の開発と，道内諸原料の利用を目的として次第に近代的大製鉄所に発展した。現在は富士製鉄資本金は約 820 億円で従業員数約 32 000 人であるが，そのうち室蘭には約 9 000 人従事している。昭和 39 年度生産，銑鉄 2 308 600 トン。鋼塊 2 523 500 トン。鋼材 1 623 400 トンであり生産は5年ごとに 2倍になるような発展の経過をたどっている。天然の良港（水深 13 m，将来 14 m の計画）をもち，8万トンの船が出入でき，恵まれた立地条件にある。

原料処理の設備としては整粒設備 400 トン/時。製銑原料工場ドワイトロイド式4機日産 7 000 トン焼結鉱年産設備能力 250万トンである。製銑の設備としては鉄皮式高炉4基日産設備能力 5 100 トン。銑鉄年産設備能力 188万 トンである。製鋼用設備としては転炉同心非分離式計3基容量計 190 トン。貯溜式混銑炉1基　1 300 トン，鋼塊年産設備能力 166万トン である。平炉傾注式4基，固定式1基，計5基容量計 1 000トン。貯溜式混銑炉1基容量 700 トン。平炉による鋼塊年産設備能力 110万トンである。圧延設備は第1分塊ロール，第2分塊ロールの合計 228 万トン鋼塊年産処理能力がある。熱間連続鋼板圧延機（ホットストリップミル）年間設備能力 144 万トンである。このほか帯鋼せん断機，鋼板せん断機，条鋼圧延機，線材圧延機の設備がある。コークス炉，タール蒸溜塔，炉材工場，研究所等の設備もある。

注目すべき点としては，スラグを利用して隣接富士セメントの工場が設けられ，高炉セメントが生産されていることである。

（7）**昭和新山**……昭和18年12月，有珠岳山麓一帯は一日に100回も地震があり，やがて付近の部落では地割れがして土地が持ち上がりはじめ翌年できた山である。標高 407 m で，現在も水蒸気や硫化水素を噴出している。ベロニーテ（Belonite）（溶岩塔）であって，昭和の奇蹟である。山とか川が現代人の見ている目の前でできて行くということが，われわれを遠い太古の時代にあるような錯覚に落ち入らせ，地球の声をきくような気持になった。表面にはもう谷が刻まれ，麓には扇状地ができるなど，地形の発達順序をはっきりと見ることができる。山麓から有珠岳の肩までロープ ウェイがかけられている。

（8）**洞爺湖**……昭和新山，有珠岳の火山をその南側に抱く支笏洞爺国立公園の湖である。明鏡という言葉が一ばんぴったりするといわれているほど澄みきった湖である。いち水面標高 83m，湖岸線の長さ 45.5 m，面積 70.0 km²，最大深度 179.2 m である。湖の中央に中の島と呼ばれる木の繁った島がある。中の島は大小4つの島に分れていて，大島には森林博物館（道立）があり，貴重な資料が展示されている。

（9）**道路のことなど**……道路構造令により，5.5 m，6.5 m などの道路の路肩は本州では大体 0.50 m にとっているが北海道では 0.75 m，1.00 mにとって鉛直に溝を掘り，溝底幅をとって斜に外側に土を切っている。火山灰の土質の苫小牧付近を通っているときこのような話を興味深くうけたまわった。

凍結深度……北海道で一番寒い，深度の大きい帯広では 120 cm 凍結するので，この 120 cm の 0.8，すなわち約 1.0 m くらいの深さまで砂利で客土（置換する）これは，砂利に置換えると凍結深度が小さくなりちょうど凍結深度が 1.0 m くらいになるので道路の凍上を防ぐことができる。

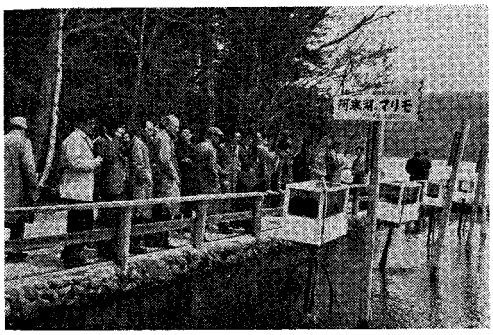
（10）**御礼の言葉**……土木学会北海道支部の方々の御骨折は何と申し上げてよいかわからないほどです。さらに北海道開発局，道庁，王子製紙KK，苫小牧港建設事務所，白老町，西松建設，富士製鉄室蘭製鉄所，その他の方々および会員の有形無形の御好意に厚く御礼を申し上げる。

（千葉工大助教授　岡　正義・記）

C 班（美幌・阿寒コース）

5月29日，年次学術講演会終了の夜，札幌駅前に集合したC班参加者56名は，見学会の第一陣として，22 時発急行石北の寝台車で美幌に向う。翌朝7時に美幌駅につき，下車後ただちに駅前の旅館で朝食をとる。朝食後休息。旅館で前夜の睡眠不足を補なう者，都会では味わえない北海道原野の新鮮な空気を満喫すべく散策する者あり。9時観光バスに満載され，美幌峠，屈斜路湖に向う。この頃から雲行きが悪くなる。バスは平々坦々とした原野を貫ぬく一直線の道路を走る。追い抜く車も，すれ違い車もほとんどない，どこまでも一直線に続く，このような道路を走って，北海道に来ているのだという実感をあらためて味わう。10時30分美幌峠につく。峠の上から屈斜路湖を望むが霧がかかって何も見えない。ガイドが「晴れた日には，右手に太平洋の海原が，左手に知床半島の山々が見え，エゾマツ，トドマツの原生林の樹海が美しく，大らかな景観が見られます」という，まったく雲のような話を聞くだけであった。仕方なく美幌峠の標識やアイヌの人達の写真を撮る。続いて屈斜路湖畔の和琴半島で下車し，湖岸に湧き出た温泉を見る。このあたりは温泉の影響で比較的暖かく，湖畔の新緑の原生林の中に梅の花が色をそえ，水芭蕉が清らかな姿をふくらませていた。またこの地帯はミンミンゼミの北限地でもある。12時前，弟子屈町に入り，清流に面した旅館の大広間で昼食をとる。温泉につかって休息し，2時30分出発，摩周湖に向う。摩周湖第一展望台でも視界がきかず，湖は神秘のベールを脱いでくれなかった。バスを進めて，白煙けむる硫黄山に向う。山の麓にはハイマツが群生し，その間にエゾシロイツツジがさかりを過ぎた姿を見せ

阿寒湖にて



雨の中の記念撮影

ていた。4時過ぎ，予定より早く川湯温泉に着き，御園ホテルと華の湯ホテルに分宿する。旅館では懇親会も開かれず，強い雨で外出もできず，一同旅館で時間を持て余まし気味。お互に浴室で何度も顔を合わす。

翌朝9時宿舎発，阿寒湖に向う。途中，昨日見られなかった摩周湖に寄る予定であったが，湖は依然として姿を見せず。エゾマツ，トドマツ，白樺の林を貫いた阿寒横断道路を走り，途中，雄阿寒，雌阿寒のめおと山を見渡す双岳台，針葉樹海の底にペンケトー（上の湖）とパンケトー（下の湖）の濃紺の湖面が望まれる双湖台に立ち，雄大な景観を味わう。11時30分阿寒湖畔に到着し，ただちに遊覧船に乗り込む。噴煙たなびく雌阿寒岳の麓に静かに横たわる青い湖底に，ゆらいでいるマリモの神秘な姿を期待していたわれわれは，チウルイ島という島におろされ，水槽に入れられた大小さまざまのマリモを観賞させられ，やや期待はずれであった。続いて湖畔に沿って船が進み，雌阿寒岳の麓の原生林を観賞しながら港に戻る。昼食後アイヌ部落を見学したり，土産物を買って時を過ごす。2時阿寒湖畔を出発，一路釧路の原野を走る。道路は新しく，どこまでも一直線で坦々と走り，ドライブも快適であった。3時30分タンチョウ鶴の自然公園を見る。鶴の優雅に乱舞する姿を期待して入った公園には，眼の前に一羽，遠くに一羽の二羽のみ。4時20分見学会の解散地，釧路駅に着く。参加者一同元気に見学会を終えたものの，旅館でのお互の懇親は十分でなく，また摩周湖その他の見学も十分にできずに，なんとなく心残りな人達が多かったように見うけられた。摩周湖は容易にその姿を見せないために，神秘の湖であるという結論を下して，皆さんに納得していただくよりほかない。最後に大会関係者にお礼申し上げるとともに，見学会の際の寝台車の席や旅館での部屋割等については観光業者に任せることなく，学会あるいは大会事務局でご配慮いただきたいし，また見学地やコース等の変更などに対する機敏な処置を希望する次第である。

（名古屋大学助教授　川本朓万・記）

水に関する技術的問題の総合的な解決への鍵！

水工学便覧

監修　東北大学名誉教授・工学博士　沼知福三郎

編集幹事　中央大学教授・工博　春日屋伸昌

東京大学教授・工学博士　本間　仁

1．理学・工学にまたがるいろいろな「水に関する技術的問題」の総合書の決定版！
2．土木・機械・農業工学・地質学の最高権威者60数氏の協力執筆による水工百科！
3．水工に関する理論，設計・施工の技術を総合的かつ具体的に解明した指導書！
4．現場技術者に最も必要な実際例，未発表のデータ，数値表等を収めた実用書！
5．見てすぐ理解できるように鮮明な3000個以上の図版を挿入した明解な便覧！

B5判　総クロース装　函入豪華本
本文1320頁　8ポイント函組・図版
写真版3000個以上　特上質紙使用
定価 10,000円　●内容見本呈●
特価 9,500円（7月末日限り）

【主要項目および執筆者】 1.流体の物理的性質（工博・井田富夫） 2.静水力学（井田富夫） 3.流体運動の基礎方程式（工博・笠原英司） 4.管水路の定常流れ（工博・豊倉富太郎） 5.管水路の非定常流れ（日立・小田保光） 6.～7.開水路の流れ（Ⅰ，Ⅱ）（工博・岩崎敏夫） 8.噴流（工博・石原智男） 9.一般の非回転運動（笠原英司） 10.渦運動（工博・川口光年） 11.粘性流体の運動（川口光年） 12.流体中を進行する物体の抵抗（工博・伊藤英覚） 13.圧縮流体の運動（川口光年） 14.キャビテーション（工博・村井等） 15.混相流（石原智男他） 16.地下水（内藤利貞） 17.流量測定（鈴木晴之） 18.水理実験（工博・尾崎晃） 19.水文学（丸井信雄） 20.河川水理学（丸井信雄） 21.海岸水理学（工博・井島武士） 22.砂防工学（工博・谷口敏雄他） 23.河川工学（横戸実他） 24.ダム水理工学（工博・村幸雄） 25.発電水力（工博・林泰造他） 26.海岸・港湾工学（工博・久宝稚史） 27.埋立工学（乗杉恂他） 28.上下水道（工博・岩塚良三他） 29.かんがい・排水（農博・野口正三他） 30.水力機械（工博・草間秀俊他） 31.工業用水（理博・蔵田延男） 32.数値表（春日屋伸昌）

東京・神田・小川町3の10　振替東京34757　電(292)2601(代)　森北出版株式会社